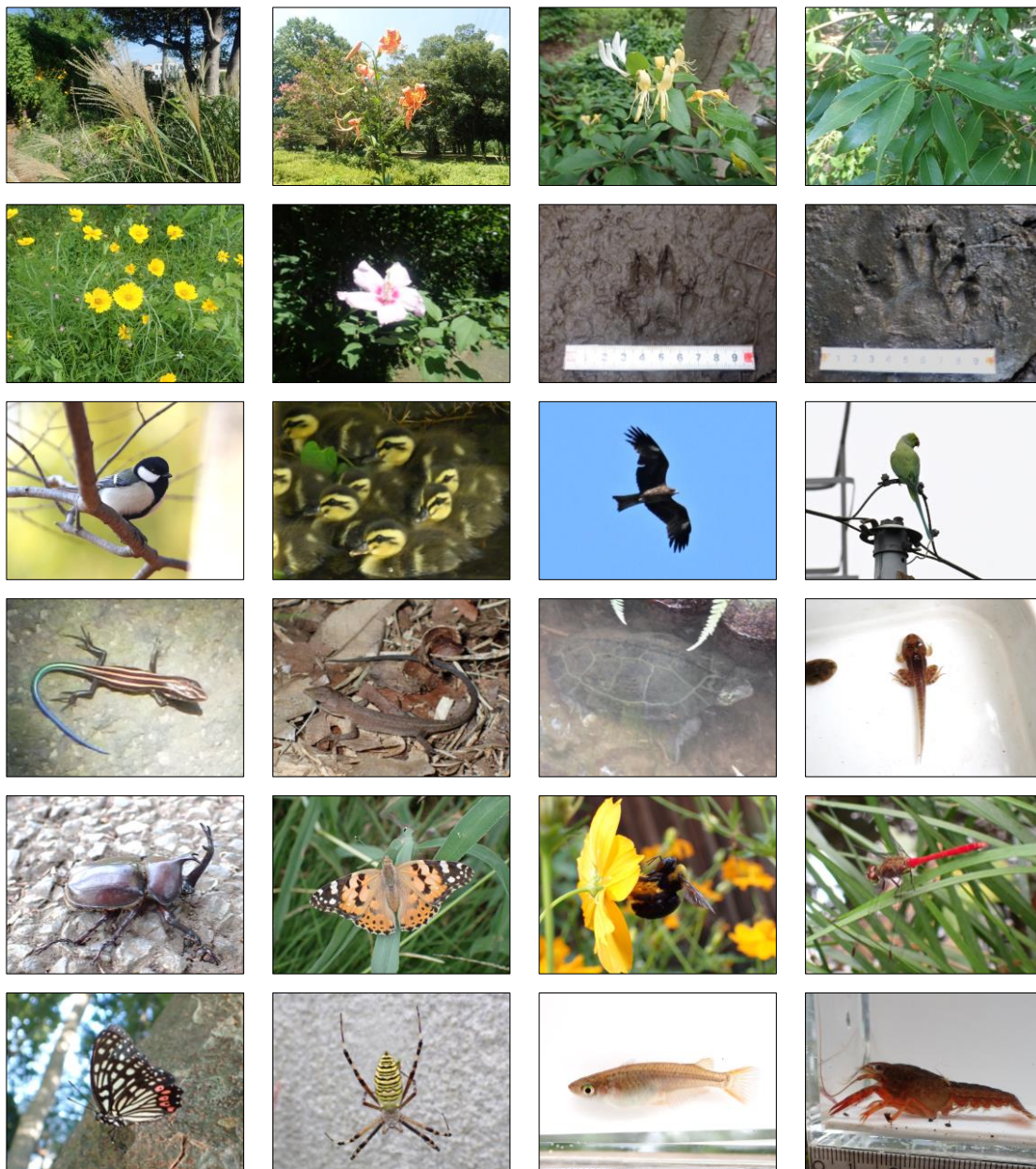


# 武蔵野市生きものの調査報告書



令和 7 年 3 月

武蔵野市



武蔵野市生きもの調査報告書

< 目 次 >

I 章 調査実施概要	1
1. 目的	1
2. 調査方法	1
3. 調査地区	3
II 章 生きもの調査の結果	4
1. 植物	7
2. 哺乳類	12
3. 鳥類	14
4. 爬虫類・両生類	18
5. 昆虫類・クモ類	20
6. 水生動物	24
III 章 まとめ（四季を通じた調査結果から）	27
1. 確認した動植物の視点からのまとめ	27
2. 調査地域の視点からのまとめ	36
資料編（確認種リスト）	49

## I 章 調査実施概要

### 1. 目的

本調査は、2017 年 4 月策定の「武蔵野市生物多様性基本方針」を踏まえ、生物多様性の評価をおこない、本市の生物多様性施策を推進するために定期的（概ね 5 年に 1 回）・定点的に実施するもので、「武蔵野生きもの調査の手引き」に基づき実施しました。

### 2. 調査方法

市内 12 か所の調査地区を選び、2024 年度の春季・夏季・秋季・冬季（冬季は哺乳類と鳥類のみ調査を実施）の 4 シーズンに専門調査員による生きもの調査を実施しました。

前回は 2018 年から 2019 年にかけて、同様の生きもの調査を実施しており、今回はその 5 年後のモニタリング調査となります。

#### ①植物調査

各調査地区の環境を代表する場所を任意に踏査し、確認された種を記録しました。調査は 1 名で実施し、調査時間は各箇所 1 時間程度を目安としましたが、調査地区の状況によって適宜調整しました。

確認された種についてリストを作成し、希少種、特に注意が必要な外来種を抽出しました。

#### ②哺乳類調査

各調査地区の環境を代表する場所を任意に踏査し、痕跡又は目撃された種を記録しました。調査は爬虫類・両生類調査と兼ねて 1 名で実施し、調査時間は各箇所 1 時間程度を目安としましたが、調査地区の状況によって適宜調整しました。

また、上記の調査では確認することが難しい夜行性の哺乳類の確認を目的として、2024 年度では以下の調査を実施しました。

- ・コウモリ類の確認を目的として、秋季の日没後（18 時以降）に各調査地区内を移動し、バットディテクターによるエコーロケーションの確認に努めました。
- ・主に夜間に活動する中型哺乳類の確認を目的として、赤外線センサーとシャッターを連動させ、カメラの前を通過する哺乳類を自動的に撮影する装置（無人撮影カメラ）による調査を実施しました。無人撮影カメラを設置する調査地区は、吉祥寺の杜・宮本小路公園、西久保公園および境山野緑地（公園）とし、各調査地区につき 1 基を樹木に括り付けるように設置しました。設置期間は、哺乳類の秋季調査から冬季調査としました。なお、住民等の誤解を招かないように、調査者および連絡先を記載した「環境調査中」の看板を無人撮影カメラの周辺に設置しました。また、盗難を防止するため、カメラと樹木を鍵付きのチェーンで巻き付けました。

確認された種についてリストを作成し、希少種、特に注意が必要な外来種を抽出しました。



### ③鳥類調査

各調査地区の環境を代表する場所を任意に踏査し、目撃又は鳴き声の確認された種を記録しました。調査は 1 名で実施し、調査時間は各箇所 1 時間程度を目安としましたが、調査地区の状況によって適宜調整しました。

確認された種についてリストを作成し、希少種、特に注意が必要な外来種を抽出しました。

### ④爬虫類・両生類調査

各調査地区の環境を代表する場所を任意に踏査し、痕跡又は目撃された種を記録しました。調査は哺乳類調査と兼ねて 1 名で実施し、調査時間は各箇所 1 時間程度を目安としましたが、調査地区の状況によって適宜調整しました。

確認された種についてリストを作成し、希少種、特に注意が必要な外来種を抽出しました。

### ⑤昆虫類・クモ類調査

各調査地区の環境を代表する場所を任意に踏査し、目視、見つけ採り、捕虫網によるスウィーピングなどの調査手法により現地踏査をおこないました。調査は 1 名で実施し、調査時間は各箇所 1 時間程度を目安としましたが、調査地区の状況によって適宜調整しました。

確認された種についてリストを作成し、希少種、特に注意が必要な外来種を抽出しました。

### ⑥水生動物調査

各調査地区の水域において、目視および採集などにより確認した種を記録しました。採集は、水域の環境などに合わせた漁具（タモ網）を用いておこないました。調査は 1 名で実施し、調査時間は各箇所 1 時間程度を目安としましたが、調査地区の状況によって適宜調整しました。

確認された種についてリストを作成し、希少種、特に注意が必要な外来種を抽出しました。

【タモ網の仕様】 目合：1mm、枠（前幅）：35 cm、長さ：140 cm

3. 調査地区

表 調査地区

調査地区	ビオトープタイプ <sup>注)</sup>			
	樹林	草地	水辺	その他
①井の頭恩賜公園	●	○		
②成蹊大学	●	●		○ (校舎)
③吉祥寺の杜・宮本小路公園	●	●		
④西久保公園	●	●		
⑤関前公園（関前緑地）	●	●	●	
⑥武蔵野中央公園	●	●		○ (植込み)
⑦亜細亜大学	●	○	●	○ (校舎、石垣)
⑧境山野緑地（公園）	●	○		
⑨農業ふれあい公園	●	●	○	● (植込み、長屋門)
⑩千川上水	●		●	○ (橋脚)
⑪仙川（桜堤公園）	●	○	●	○ (石垣)
⑫小金井公園	●	●		

注) 2024 年度調査において、動植物の生育・生息が確認された環境をビオトープタイプとして整理しました。

●：主なビオトープタイプ ○：部分的に存在するビオトープタイプ

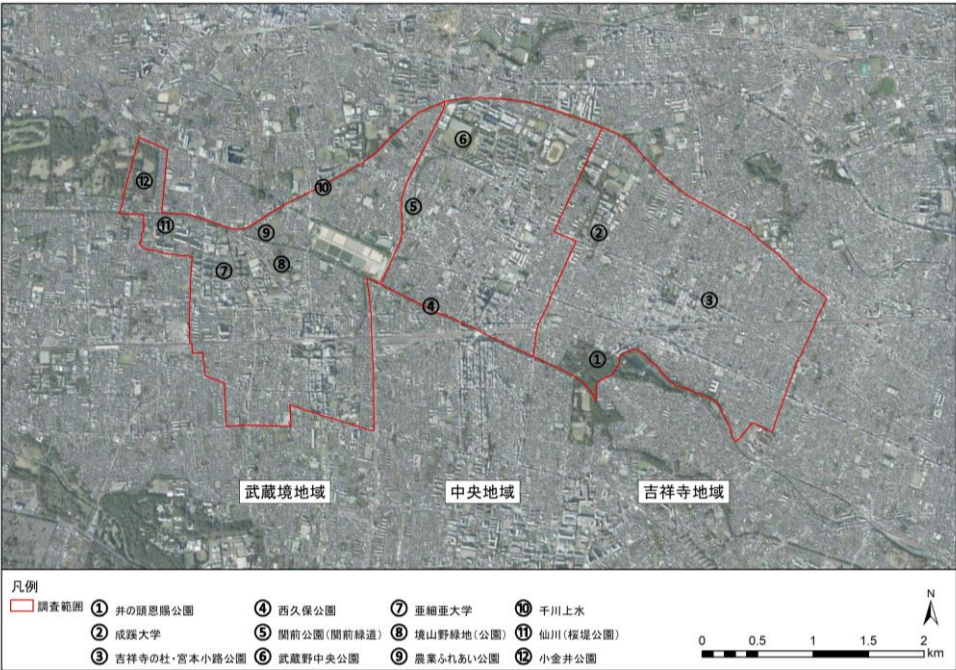


図 調査地区

## Ⅱ章 生きものの調査の結果

環境省のホームページには、「我が国の既知の生物種数は 9 万種以上、分類されていないものも含めると 30 万種を超えると推定」と記されています。そのため、市区町村で「生きものの調査」を実施する際は、どこまで詳しく調べるか、調べられるかという点において、考慮する必要があります。

2024 年度の調査では、植物調査では維管束植物を、水生動物調査では肉眼により簡単に同定できる動物を対象としました。哺乳類、鳥類、爬虫類・両生類、昆虫類・クモ類の調査では全ての種を対象としておこないません。

調査の結果、確認された種を一覧表に整理し、国もしくは東京都がまとめているレッドデータ該当種、法制度で規制を求めている特定外来生物および生態系被害防止外来種リスト掲載種を取り上げて、生物多様性を守る視点から注目しました。

【希少種および特に注意が必要な外来種の基準とした文献】

1. 環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について：（環境省、令和 2 年 3 月公表）
2. 環境省報道発表資料 第 5 次レッドリスト（植物・菌類）の公表について：（環境省、令和 7 年 3 月公表）
3. 東京都レッドデータブック（本土部）2023 – 東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版 – 北多摩：（東京都、令和 5 年 3 月公表）
4. 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律：（環境省、平成 30 年 4 月公表）
5. 「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）」の公表について（お知らせ）：（環境省、平成 28 年 3 月公表）

表 環境省レッドリストのカテゴリー区分

カテゴリー名称	表示	基本概念
絶滅	EX	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅	EW	飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種
絶滅危惧Ⅰ類	CR+EN	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧ⅠA 類	CR	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB 類	EN	ⅠA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類	VU	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
情報不足	DD	評価するだけの情報が不足している種
絶滅のおそれのある地域個体群	LP	孤立した地域個体群で、絶滅のおそれが高いもの

表 東京都レッドデータブックのカテゴリー区分

カテゴリー名称	表示	基本概念
絶滅	EX	当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下を含めすでに絶滅したと考えられるもの
野生絶滅	EW	当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられるもの
絶滅危惧Ⅰ類	CR+EN	絶現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
絶滅危惧ⅠA類	CR	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類	EN	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類	VU	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
情報不足	DD	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの
留意種	*	<p>現時点では準絶滅危惧のレベルではないが、相対的に数が少ない種であり、次の理由(選定理由①～⑥)のいずれかにより容易に個体数が減少することがあり得るため、その動向に留意する必要があるもの</p> <p>＜選定理由＞</p> <p>①生息・生育環境が減少もしくは悪化することで、個体数が減少するおそれがある。</p> <p>②生息地の限定もしくは分断による個体群の縮小あるいは孤立化により、個体数が減少するおそれがある。</p> <p>③人為的な環境配慮により個体群が維持されているが、人為的な環境配慮が失われた場合、個体数が減少するおそれがある。</p> <p>④外来種の影響により、個体数が減少するおそれがある。</p> <p>⑤生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている種であり、これら特殊な環境が失われた場合、個体数が減少するおそれがある。</p> <p>⑥かつて悪化していた環境の回復にともない個体群規模が戻ったが、その状況は不安定であり、環境が変化すれば個体数が減少するおそれがある。</p>

表 生態系被害防止外来種のカテゴリー区分

定着予防外来種	国内に未定着のもの。定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、導入の予防や水際での監視、野外への逸出・定着の防止、発見した場合の早期防除が必要な外来種。
侵入予防外来種	特に導入の予防、水際での監視、バラスト水対策等で国内への侵入を未然に防ぐ必要がある。
その他の定着予防外来種	侵入の情報はあが、定着は確認されていない種。
総合対策外来種	国内に定着が確認されているもの。生態系等への被害を及ぼしている又はそのおそれがあるため、国、地方公共団体、国民など各主体がそれぞれの役割において、防除（野外での取り除き、分布拡大の防止等）、遺棄・導入・逸出防止等のための普及啓発など総合的に対策が必要な外来種。対策の緊急性が高く、特に、各主体がそれぞれの役割において、積極的に防除を行う必要がある。
緊急対策外来種	「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方に基づき、被害の深刻度に関する基準①～④のいずれかに該当することに加え、対策の実効性、実行可能性として⑤に該当する種。
重点対策外来種	「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方に基づき、被害の深刻度に関する基準①～④のいずれかに該当する種。甚大な被害が予想されるため、特に、各主体のそれぞれの役割における対策の必要性が高い。
その他の総合対策外来種	—
産業管理外来種	産業又は公益的役割において重要で、代替性がなく、その利用にあたっては適切な管理を行うことが必要な外来種。種ごとに利用上の留意事項を示し、適切な管理をよびかける。

＜緊急対策外来種、重点対策外来種における対策の優先度の考え方＞

（被害の深刻度に関する基準）

- ①生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大
- ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い
- ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い
- ④人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対し甚大な被害を及ぼす  
（対策の実効性、実行可能性）
- ⑤防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある等、一定程度の知見があり、対策の目標を立て得る。

## 1. 植物

2024 年度の調査では、129 科 587 種の植物が確認されました。以下に、注目される種として、希少種、特に注意が必要な外来種をいくつか紹介します。

### (1) 希少種

エビネ、キンラン、マヤラン、オニノヤガラ、カンガレイ、マツカサススキ、サラシナショウマ、タコノアシ（以上、栽培種として植栽された可能性のある種を除く 8 種の国もしくは都のレッドデータ該当種）。

#### 【希少種（1/3）】



他所で撮影された株

#### ■ エビネ

暖温帯の落葉広葉樹林などの林床や林縁に生育する多年草です。管理された樹林はよい生育地となり、かつては里山でよく見られましたが、園芸ブームの乱獲によって激減しました。4～5 月にやや疎らに 8～15 個の花をつけます。



他所で撮影された株

#### ■ キンラン

暖温帯の落葉広葉樹林内や林縁に生育する多年草です。かつては雑木林に入ればどこにでも咲いていたランですが、現在では数が少なくなっています。数が少なくなった一番の原因は雑木林の管理放棄です。4～6 月に黄色の花を 3～12 個つけます。



【希少種（2/3）】



■ マヤラン

ブナ科、カバノキ科、マツ科の樹木が優占する樹林の林床に生育します。菌従属栄養植物であり葉を持ちません。かつて関東地方では希少でしたが、近年急速に分布を拡大しています。6～10月に、白色で紅紫色を帯びる花を2～6個つけます。



■ オニノヤガラ

暖温帯から亜寒帯の林内に生育する葉緑素をもたない菌従属栄養植物です。まっすぐに伸びた花茎を鬼の矢柄にたとえて名付けられました。中国では漢方薬の天麻として重用され人工栽培も盛んにおこなわれています。



■ カンガレイ

池沼や川岸の湿地などに生育する多年草です。枯れた茎が冬になっても残っていることから、この名がつきました。湿地の改変や消失、環境の変化が減少の要因です。一方で、かいぼり後に大量発生した例があり、消失した自生地でも埋土種子から復活する可能性があります。



【希少種（3/3）】



■ マツカサススキ

平地の湿地などに生育する高さ 1～1.5m になる大型の多年草です。ときに休耕田でも見られます。河川敷の環境改変や、開発による池沼の消滅などにより少なくなっています。



■ サラシナショウマ

草原や林縁、落葉広葉樹林内などに生育する多年草です。都内では広く分布していますが、区部では近年確認されておらず、北多摩地域でも減少が著しいです。樹林の伐採や土地造成が主な減少要因と考えられています。



■ タコノアシ

河川の湿地や休耕田などに生育する多年草です。花や実がびっしり並んだ花序を、吸盤の多いタコの足にみたてて名付けられました。湿地の埋め立てや河川改修のほか、生育地の乾燥化なども減少の要因とされています。

(2) 特に注意が必要な外来種

オオカナダモ、シンテッポウユリ、ヒメヒオウギズイセン、キシノウブ、シュロ、ノハカタカラクサ、ホテイアオイ、メリケンガヤツリ、メリケンカルカヤ、シナダレスズメガヤ、ネズミムギ、ホソムギ、オオクサキビ、シマスズメノヒエ、タチスズメノヒエ、モウソウチク、オニウシノケグサ、ナギナタガヤ、ヒイラギナンテン、アレチヌスビトハギ、ハリエンジュ、ナヨクサフジ、ビワ、コマツヨイグサ、ニワウルシ、フヨウ、ヒメツルソバ、エゾノギシギシ、ムシトリナデシコ、キウイフルーツ、ツルニチニチソウ、マルバアサガオ、トウネズミモチ、フサフジウツギ、オオブタクサ、アメリカセンダングサ、リュウノウギク、オオキンケイギク、ハルシャギク、ヒメジョオン、フランスギク、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ（以上、43 種の特定外来生物および生態系被害防止外来種リスト掲載種）。

【特に注意が必要な外来種（1/2）】



■ キシノウブ

ヨーロッパから西アジアに分布する多年草です。日本には 1897 年頃に渡来し、北海道、本州、四国、九州で逸出しています。花が美しいため水辺に植えられることが多いですが、海外では侵略的な外来種とされており、日本でも河川などで分布を拡大しています。



■ シュロ

日本では南九州に自生し、中国にも分布する常緑高木です。市販品が流通しており、それ由来のものが逸出しています。二次林や自然林に侵入するほか、市街地でも野生化した株がみられています。



【特に注意が必要な外来種（2/2）】



■ ノハカタカラクサ

南アメリカ原産の多年草です。観葉植物として利用され、日本では本州、四国、九州に逸出しています。海外では侵略的な外来種とされ、日本でも分布を拡大しています。



■ ホテイアオイ

熱帯アメリカ原産の浮遊性の多年草です。観賞用として渡来し、本州、四国、九州、南西諸島に分布しています。海外では侵略的な外来種とされ、日本でも河川で拡大しており、水生生物への影響が懸念されています。



■ ニワウルシ

中国の北～中部原産の落葉高木です。庭木、公園樹、街路樹として栽培されており、日本では本州、四国、九州、南西諸島に逸出しています。海外では侵略的な外来種とされており、日本でも河川沿いなどで密林を形成しながら分布を拡大しています。また、雑木林への侵入も危惧されています。

## 2. 哺乳類

2024年度の調査では、4目6科6種の哺乳類が確認されました。以下に、注目される種として、特に注意が必要な外来種を紹介します。

### (1) 希少種

国もしくは都のレッドデータ該当種は確認されていません。

### (2) 特に注意が必要な外来種

クマネズミ属、アライグマ、ハクビシン（以上、3種の特定外来生物および生態系被害防止外来種リスト掲載種）。

#### 【特に注意が必要な外来種（1/2）】



無人撮影カメラで撮影された個体

#### ■ クマネズミ属

世界中に分布し、日本には非常に古い時代に侵入したと考えられるクマネズミとドブネズミが生息しています。人に感染症を媒介するほか、食料をあさることで飲食店や農家に経済的被害をもたらします。また、ケーブルをかじって火災を引き起こすこともあります。



確認された足跡

#### ■ アライグマ

北アメリカ原産の中型哺乳類です。ペットとして輸入されたものが野生化し、日本全国に分布しています。農作物を食害するほか、鳥類の卵や水生動物などを捕食し、生態系に悪影響をおよぼします。また、アライグマ回虫という寄生虫を媒介することも知られています。

【特に注意が必要な外来種（2/2）】



無人撮影カメラで撮影された個体

■ ハクビシン

東南アジア原産の中型哺乳類です。日本には江戸時代に持ち込まれた記録があります。雑食性で、小動物や農作物を食害するほか、生ゴミをあさることもあります。また、人家の天井裏などに侵入し、足音や鳴き声による騒音、糞尿の悪臭、しみ汚れ、ダニやノミなどの害虫発生の原因ともなります。

### 3. 鳥類

2024 年度の調査では、8 目 21 科 30 種の鳥類が確認されました。以下に、注目される種として、希少種、特に注意が必要な外来種を紹介します。

#### (1) 希少種

ツミ、ハイタカ、オオタカ、カワセミ、モズ、オナガ、イカル（以上、7 種の国もしくは都のレッドデータ該当種）。

#### 【希少種（1/3）】



##### ■ ツミ

平地から山地の樹林や市街地に生息・繁殖する小型のタカです。1970 年代までは少なかったものの、1980 年代以降、関東地方を中心に繁殖が確認され、現在では身近なタカの一つとなっています。しかし、ハシブトガラスとの競合や捕食、写真撮影や観察などによる過度なストレスで生息が脅かされています。



##### ■ ハイタカ

平地から山地の樹林、耕作地、河川敷などに生息する中型のタカです。北海道、本州の一部で繁殖します。東京都では西多摩地域で繁殖の可能性があります、詳しくはわかりません。北多摩地域では冬鳥として渡来します。樹林の伐採や土地造成による生息環境の悪化が懸念されています。

他所で撮影された個体



【希少種（2/3）】



他所で撮影された個体

■ オオタカ

平地から山地の樹林に生息・繁殖する中型のタカです。2000年代以降、都区部でも繁殖が確認され、営巣地が徐々に拡大しています。一方で、本種の生息環境は、樹林の伐採や土地造成によって減少しています。また、写真撮影や観察などの人為的な影響により、繁殖が失敗するおそれがあります。特に、繁殖期の過度な接近は親鳥の警戒心を強め、巣を放棄するリスクを高めるため、適切な距離を保つことが重要です。



■ カワセミ

海岸線から山地の河川や池に生息・繁殖します。背中の美しいコバルトブルーが特徴的で、宝石に例えられることもあります。繁殖は水辺近くの崖に穴を掘っておこないますが、東京都の都市部では営巣に適した土の崖が少なく、排水穴など人工物を利用することもあります。



■ モズ

平地から山地の疎林、耕作地河畔林などに生息・繁殖しています。本州の低地では、ほかの小鳥に比べ早くに巣造りを始めます。昆虫類やカエル類、小鳥類などを捕らえて食べます。主に秋から冬にかけて、捕らえた獲物を木の枝などに串刺しにする「はやにえ」をおこなう習性がみられます。宅地化などの土地造成が減少の主な要因です。



【希少種（3/3）】



■ オナガ

平地から山地の雑木林、市街地などに生息・繁殖しています。東京都の多摩地域では耕作地の減少により分布は減少傾向ですが、区部では公園の樹木が生長し、分布が増加傾向にあります。



■ イカル

平地から山地の樹林に生息・繁殖しています。特徴的な大きな嘴で堅い木の実や種子を割って食べることができます。冬季は平地の樹林に群れをつくって移動してきますが、都市公園の樹林は越冬地や渡りの中継地として重要な機能を果たします。植林のための広葉樹林の伐採が減少の主な要因です。

(2) 特に注意が必要な外来種

ワカケホンセイインコ、ガビチョウ（以上、2 種の特定外来生物および生態系被害防止外来種リスト掲載種）。

【特に注意が必要な外来種】



■ ワカケホンセイインコ

インド、スリランカ原産のインコです。飼  
い鳥として輸入したものが逃げ出し、日  
本に定着したと考えられています。東京  
都、千葉県、神奈川県などで繁殖が確認さ  
れ、群れで見られるのは関東地方のみで  
す。樹洞で繁殖するため、在来種のムクド  
リやアオバズクと競合するおそれがあり  
ます。また、原産地では農作物の害鳥とさ  
れ、日本でも農業被害が懸念されていま  
す。



■ ガビチョウ

中国、ラオス、ベトナム、台湾原産の鳥類  
です。日本では 1980 年代に北九州で生  
息が確認され、現在は本州、四国、九州に  
分布しています。美しい声を持ち、江戸時  
代には飼い鳥として輸入されました。個  
体数が増えると餌や営巣場所をめぐって  
在来種と競合し、生態系に影響をおよぼ  
す可能性があります。

他所で撮影された個体

#### 4. 爬虫類・両生類

2024 年度の調査では、2 目 5 科 5 種の爬虫類と 1 目 1 科 1 種の両生類（ニホンアカガエル）が確認されました。以下に、注目される種として、希少種を紹介します。

##### （1）希少種

- 爬虫類：ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、アオダイショウ（以上、4 種の都のレッドデータ該当種）。
- 両生類：ニホンアカガエル（以上、1 種の都のレッドデータ該当種）。

##### 【希少種（爬虫類、1/2）】



##### ■ ニホンヤモリ

主に木造家屋を中心とした建造物に生息します。夜行性であり、電灯などに集まる昆虫類を捕食することもあります。古い木造建築物が減り、近代的な気密性の高い建築物に置き換わることにより、生息に適した環境が減少していると考えられています。

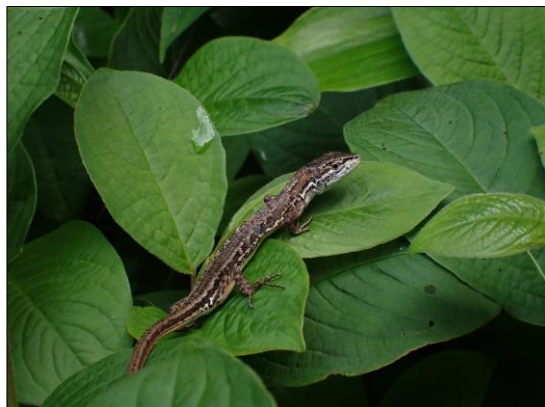


##### ■ ヒガシニホントカゲ

樹林や市街地、農地などの陽当たりのよい場所によく見られます。昆虫類やミミズなどの小さな動物を捕食します。樹林の伐採や草地の開発などによる生息場所や餌動物の減少ほか、日光浴の場所となる石垣の減少も本種が個体数を減少させている原因であると考えられています。

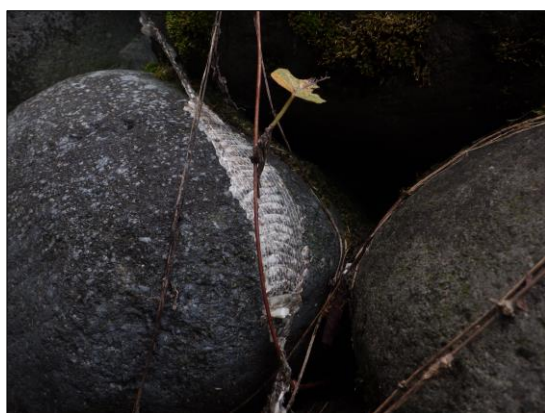


【希少種（爬虫類、2/2）】



■ ニホンカナヘビ

平地の草地や市街地の公園、路上、人家の庭先などの開けた場所に好んで生息します。主に昆虫やクモなどの小型の節足動物を捕食します。草地の開発などにより生息場所や餌となる生きものが減少していることが、本種の生存に大きな悪影響を与えていると考えられています。



確認された抜け殻

■ アオダイショウ

樹林や農地、水辺などさまざまな環境に生息するヘビです。人家の近くや、倉庫などでもよく見られます。昼行性で、樹上や地表でネズミや鳥類を捕食します。樹林の伐採や開発などにより生息場所や餌となる生きものが減少していることが、本種の個体数減少の原因になっています。

【希少種（両生類）】



■ ニホンアカガエル

山間地や丘陵地の林縁や水田周辺の草地などに生息するカエルです。成体は昆虫を中心とした小動物を捕食します。1月下旬から2月下旬に水田や河川敷の水たまりといった浅い止水域に産卵し、幼生（オタマジャクシ）はそこで育ちます。そのため、水田などの繁殖に適した水辺が減少していることによって、個体数や生息地が減少しています。

(2) 特に注意が必要な外来種

特定外来生物および生態系被害防止外来種リスト掲載種は確認されていません。

## 5. 昆虫類・クモ類

2024年度の調査では、16目178科636種の昆虫類、1目18科81種のクモ類が確認されました。以下に、注目される種として、希少種、特に注意が必要な外来種を紹介します。

### (1) 希少種

- 昆虫類：マユタテアカネ、エノキカイガラキシラミ、オオアメンボ（水生動物の項で紹介）、オオモモブトスカシバ、ウバタマムシ、タマムシ、モンスズメバチ（以上、7種の国もしくは都のレッドデータ該当種）。
- クモ類：ヤエンオニグモ（以上、1種の都のレッドデータ該当種）。

#### 【希少種（昆虫類、1/3）】



#### ■ マユタテアカネ

周囲に樹林のある池沼や湿地、水田などを好んで生息するアカトンボです。かつては住宅地でもふつうに見られましたが、近年その数が激減しています。その原因としては、水田などの湿地の減少や、農薬の散布、水生の侵略的外来生物の増加が影響していると考えられています。



#### ■ エノキカイガラキシラミ

セミに近い仲間の非常に小さな昆虫です。幼虫はエノキの葉にツノ状の虫えい（ゴール）を形成し、その中で生活します。エノキは全国各地にふつうに生育している樹木ですが、本種の生息が確認されている場所は少なく、近年では著しく減少しています。原因はよく分かっていませんが、開発などによって生息環境が減少している可能性があると考えられています。

確認された虫えい（ゴール）

【希少種（昆虫類、2/3）】



■ オオモモボトスカシバ

里山や雑木林に生息するガです。幼虫はカラスウリやキカラスウリの茎の内部を食べます。成虫は夏に出現し、昼間に各種の花を訪れます。飛翔する姿はハナバチ類によく似ています。草刈りなどによるカラスウリ類の減少に伴って、本種も個体数を減らしています。



■ ウバタマムシ

マツ林に生息する大型の甲虫です。幼虫は枯死または衰弱したマツの材部を食べて成長します。成虫になると、マツの葉を食べます。開発や管理放棄によるマツ林の衰退や消失によって、個体数が減っていると考えられています。



■ タマムシ

雑木林に生息する宝石のように輝く甲虫です。成虫は、日差しの強い暑い日中にエノキやケヤキの高いところを飛翔し、これらの葉を食べます。幼虫は広葉樹の材部を食べて成長します。開発による樹林の縮小、幼虫が生息できる大木の消失などによって、個体数が減っていると考えられています。



【希少種（昆虫類、3/3）】



■ モンズズメバチ

山地から市街地周辺まで広く生息するスズメバチです。樹洞、土中、家屋の屋根裏、壁間などに営巣し、大きな巣では直径 1m を超えることもあります。餌として、セミ類を好んで捕まえます。主な餌であるセミ類の個体数が減少したことから、本種の数も減少したと言われています。

【希少種（クモ類）】



■ ヤエンオニグモ

背丈の高い草地や藪などに生息しているクモです。草木の低い位置に丸い網を張り、網にかかった昆虫を捕食します。幹線道路や山道の林縁における過度の草刈りや除草剤の散布によって、都内の各地で個体群が減少しています。

(2) 特に注意が必要な外来種

- 昆虫類：アカボシゴマダラ（以上、1 種の特定外来生物および生態系被害防止外来種リスト掲載種）。
- クモ類：ハイイロゴケグモ（以上、1 種の特定外来生物および生態系被害防止外来種リスト掲載種）。



【特に注意が必要な外来種（昆虫類）】



■ アカボシゴマダラ

ベトナム北部～朝鮮半島を原産とする大型のチョウです。日本では 1998 年に神奈川県で定着が確認されて以降、関東地方を中心に分布域を拡大させています。蝶マニアによる意図的な放蝶が原因であると考えられています。幼虫はエノキを食草とするため、同じくエノキを食草とするゴマダラチョウやオオムラサキ、テングチョウと競合するおそれがあります。

【特に注意が必要な外来種（クモ類）】



■ ハイイロゴケグモ

オーストラリアや中～南アメリカ、太平洋の島々を原産とする大型のクモです。海外からの貨物に付着して侵入したと考えられ、1995 年に神奈川県ではじめて記録されました。人工物の隙間や裏側に網を張って生息します。攻撃性は低いものの、メスは神経毒を持ち、咬傷例が報告されています。

## 6. 水生動物

2024 年度の調査では、4 目 6 科 10 種の魚類、15 目 27 科 35 種の無脊椎動物の水生動物が確認されました。以下に、注目される種として、希少種、特に注意が必要な外来種を紹介します。

### (1) 希少種

ニゴイ、ミナミメダカ\*、トウヨシノボリ類、オオアオイトトンボ、オオアメンボ（以上、5 種の国もしくは都のレッドデータ該当種）。

\*ミナミメダカは、他地域の個体や飼育品種が各地で放流されているため、今回確認された個体も、外来由来の個体群や飼育系統のもの、あるいはそれらと在来個体群が交雑したものである可能性があります。

### 【希少種（1/2）】



#### ■ ニゴイ

コイの仲間で、コイに似ることからニゴイと呼ばれています。コイに比べて細長い体で、吻が長く、1 対の口髭があります。河川の中流域から下流域に生息し、潮の影響を受ける汽水域でもみられます。都内では水質悪化が深刻化した 1970 年から 1980 年頃にかけて減少したとされていますが、近年では大きな河川を中心に回復してきています。



#### ■ ミナミメダカ

平野部の河川や農業水路など、流れが緩やかで、水際などに植物が繁茂する場所に生息しています。植物に産卵するため、水際の植物は重要な環境となります。東京都内では広く確認されていますが、観賞用に販売されている他地域の個体や、飼育品種などの放流にともない、交雑が起きており、在来個体群は激減しています。

【希少種（2/2）】



■ トウヨシノボリ類

ハゼの仲間で、大きさは3～7cm程度の小型の種です。生息環境は河川の上流から下流、池沼など多様で、地域によってさまざまな集団の存在が知られています。主に礫底の流れのある河床が典型的な生息場所です。多摩川や荒川などの河川では、国内外来種のカワヨシノボリによって生息場や餌資源をめぐる競合が生じています。



■ オオアイトトンボ

イトトンボの仲間です。幼虫は平地から丘陵地の樹林にかこまれた、やや薄暗い池や湿地に生息しています。水底の腐食植物などにつかまって、動物プランクトンや昆虫類などを捕食します。池沼や湿地の減少、水生植物の衰退などにより減少しています。



■ オオアメンボ

日本に生息するアメンボ類では最大の種です。平地から低山地の緩やかな流れの河川や池沼に生息し、適度に樹陰のある水質のよい環境を好みます。環境の変化に敏感であり、河川改修や水質悪化などにより減少しています。

(2) 特に注意が必要な外来種

グッピー、フロリダマミズヨコエビ、アメリカザリガニ（以上、3 種の特定外来生物および生態系被害防止外来種リスト掲載種）。

【特に注意が必要な外来種】



■ グッピー

南アメリカ原産の魚類です。観賞魚として販売されており、日本では 1955 年頃から北海道南部より南の日本各地の温泉地や工場排水の流れ込む水路や河川、南西諸島や小笠原などに定着しています。市街地の池などでも、夏場は一時的に生息が可能で、繁殖している場合がありますが、低水温に弱いため冬場は生きていきません。また、コイ科やメダカ科などの小型魚類を駆逐することが知られています。



■ フロリダマミズヨコエビ

アメリカ南東部原産のヨコエビの仲間です。1989 年頃に千葉県や茨城県などで確認され、それらの少数個体が分布を拡げ、現在では日本各地で確認されています。日本へは鑑賞用の水生植物などに付着して侵入したと考えられています。ほかの無脊椎動物に対して、生息場所や餌などの競合といった影響が懸念されています。



■ アメリカザリガニ

北アメリカ南部原産の甲殻類です。日本へは 1927 年頃に神奈川県に導入されたのが最初とされ、食材やペットなどの利用により、日本各地に分布が広がったと考えられています。本種の侵入した水域では、切断により植物を消滅させたり、捕食により昆虫類などを減少させたりするなど、さまざまな影響が確認されています。このことから 2023 年に条件付特定外来生物に指定され、採集や飼育、譲渡は可能ですが、販売や野外への放流は禁止されています。



### Ⅲ章 まとめ（四季を通じた調査結果から）

#### 1. 確認した動植物の視点からのまとめ

2024年度の調査において、希少種や外来種が多く確認されました。希少種は地域の生物多様性において重要な役割を果たしており、これらの種の保護は生態系の健全性を維持するために不可欠です。一方で、外来種は地域の生態系に影響を与える可能性があるため、分布状況のモニタリングや場合に応じて適切な対策を講じることが重要です。

##### （1）希少種

2024年度の調査では、市内の樹林、草地、水辺、人工的な環境などさまざまな環境に生息する希少種が確認されました。分類群ごとに、それぞれ確認された希少種の特徴を以下にまとめます。

##### 【植 物】

雑木林などの樹林では、特定の環境を必要とする植物が確認されました。これらの植物の中には、樹木や土壌の状態と深く関わる種も含まれ、樹林の維持が生育にとって重要です。また、湿地の泥地に限って生育する植物も確認されました。これらの生育環境の変化は、植物群だけでなく、湿地を利用する動物にも影響をおよぼすため、適切な管理が求められます。

- ・ 樹林内や林縁に生育する種：エビネ、マヤラン、オニノヤガラ、サラシナショウマ
- ・ 明るい雑木林に生育する種：キンラン
- ・ 湿地に生育する種：マツカサススキ、タコノアシ、カンガレイ



## 【哺乳類】

2024 年度の調査では、哺乳類の希少種の確認はありませんでしたが、アズマモグラやヒナコウモリ科（確認された環境からアブラコウモリの可能性が高いと考えられます）、タヌキといった在来種の生息が確認されており、このような在来種が今後減少しないように注意することが重要です。

### ・希少種ではないが確認された在来種



確認されたモグラ塚

#### ■ アズマモグラ

河川敷や水田、畑地、草地、樹林などの湿潤で柔らかい土壌に坑道を掘って地下で暮らしています。坑道は腐植質の多い地下30cmくらいに作られることが多いです。坑道内を巡回し、主にミミズと昆虫類を捕食します。稀に地上に出て来る個体を見かけることがあります。



他所で撮影された個体

#### ■ ヒナコウモリ科（アブラコウモリの場合）

アブラコウモリは、主に家屋に棲むことから「イエコウモリ」とも呼ばれます。夜間に飛ぶ昆虫類を捕食し、都市部では木造家屋の壁や羽目板の隙間、倉庫の梁などを棲みかとします。冬季には天井裏などで冬眠します。近年、古い木造家屋の減少にともない、ビル屋上の通風口なども利用するようになっていきます。



無人撮影カメラで撮影された個体

#### ■ タヌキ

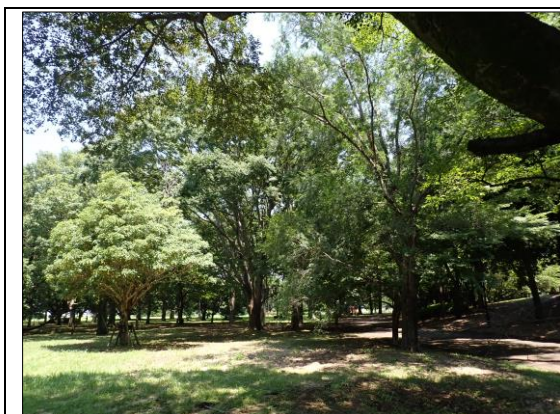
住宅地周辺から山地まで広く生息しています。日中は巣穴で休み、夜になると餌を求めて活動します。自分で巣穴を掘ることはなく、木の根元のくぼみ、岩の割れ目、アナグマの古巣、人家の軒下や排水溝などを利用します。雑食性で、ドングリやトウモロコシなどの植物のほか、昆虫、ミミズ、カエル、ヘビ、魚、鳥、ネズミ、人の残飯など、さまざまなものを食べます。また、泳ぐのが得意です。



### 【鳥 類】

樹林や公園などの緑地、水辺などで、さまざまな鳥類が確認されました。タカ類をはじめとする樹林を利用する種、都市の公園や緑地を拠点とする種、水辺を採餌場とする種など、それぞれの生息環境に適応した鳥類が観察されました。広範囲を移動する鳥類も確認されており、市内の生態系回廊が生息環境や移動経路として機能している可能性が示唆されました。

- ・ 樹林や公園の緑地などに生息する種：ツミ、オオタカ、オナガ
- ・ 草地と樹林が混在する環境に生息する種：モズ
- ・ 水辺の周辺に生息する種：カワセミ
- ・ 広範囲を利用する種：ハイタカ
- ・ 渡来状況が変化する漂鳥：イカル



希少な鳥類が生息する樹林



希少な鳥類が生息する草地

### 【爬虫類・両生類】

石垣や陽当たりのよい草地、さらには人工物など、さまざまな環境を利用する爬虫類が確認されました。これらの種は、陽当たりの良し悪しや人工物の撤去などの小さな環境変化の影響を受けやすく、緑地管理の方法によって生息状況が大きく変わる可能性があります。また、水辺では、繁殖に適した環境を必要とする両生類が確認されており、市街地周辺での生息維持には適切な湿地環境の整備が重要です。

- ・ 人工物（樹名板や東屋の隙間など）を棲みかとして利用する種：ニホンヤモリ
- ・ 石垣やガレ場、切り株周辺、植栽帯に生息する種：ヒガシニホントカゲ
- ・ 陽当たりのよい林縁や草地を生息環境とする種：ニホンカナヘビ
- ・ さまざまな環境（樹林、草地、水辺など）を利用する種：アオダイショウ
- ・ 水辺を繁殖・生息場所として利用する種：ニホンアカガエル





樹名板の裏を棲みかとするニホンヤモリ



水辺で育つニホンアカガエルの幼体  
(放流個体が起源の可能性もあります)

#### 【昆虫類・クモ類】

主に樹林や湿地で、希少な昆虫類・クモ類が確認されました。陽当たりのよい環境に生息する種、枯死した樹木を利用する種、特定の植物と共生する種など、特定の樹木や環境に依存する種も確認されました。これらの種は、樹林の管理や植生の変化に敏感であり、知らぬ間に個体数が減少する可能性があるため、継続的なモニタリングが求められます。

- ・陽当たりのよい場所に生えるエノキやケヤキを生息環境とする種：タマムシ
- ・衰弱・枯死したアカマツを利用する種：ウバタマムシ
- ・湿地で発生し、周囲の樹林を利用する種：マユタテアカネ
- ・カラスウリ類から発生する種：オオモモブトスカシバ
- ・樹林や草地の低木に生息する種：ヤエンオニグモ
- ・エノキを生息環境とする種：エノキカイガラキジラミ
- ・樹林に広く生息する種：モンズズメバチ



ウバタマムシが確認されたアカマツが  
生育する樹林

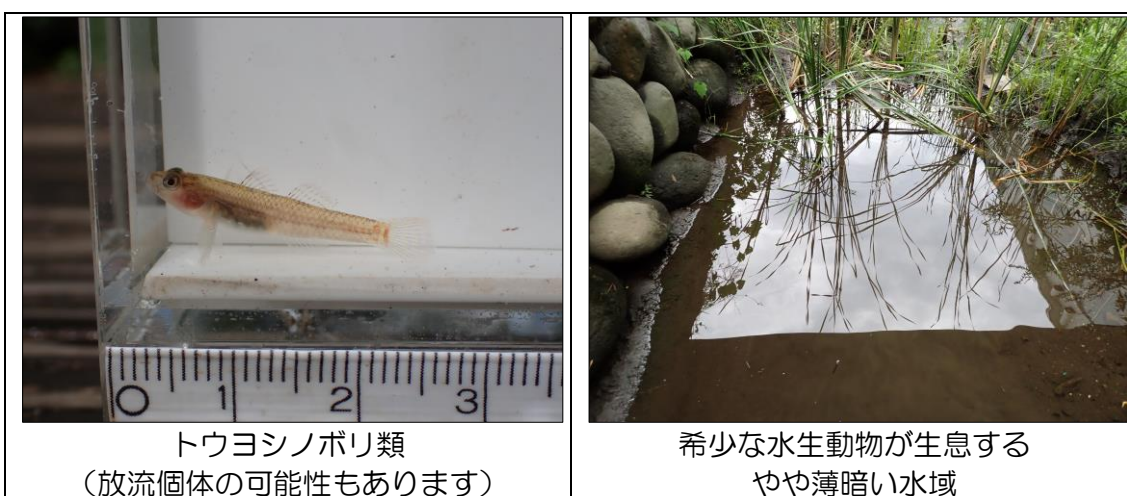


エノキカイガラキジラミやタマムシが  
利用するエノキ

### 【水生動物】

河川や池などの水域では、流れの穏やかな環境を利用する魚類や水生昆虫が確認されました。これらの種は、水質や水量の変化に敏感であり、生息環境の維持が必要です。また、一部の魚類は、人為的な放流に由来する個体である可能性が懸念される種も含まれており、在来個体群の保全を考慮した適切な水辺の管理が重要となります。

- ・流れの緩やかな河川や水路、池などに生息する種：ミナミメダカ、トウヨシノボリ類
- ・やや薄暗い池などに生息する種：オオアメンボ、オオアイトトンボ
- ・流れの緩やかな河川の低層に生息する種：ニゴイ



### 確認された希少種のまとめ

2024年度の調査では、市内の樹林、草地、水辺、市街地の人工的な環境に生息する希少な動植物が記録されました。中には、特定の樹種が生育する樹林や湿地など市内の限られた環境を必要とする種も確認されました。また、環境変化の影響を受けやすい種や個体数の減少が懸念される種も確認されており、今後の継続的なモニタリングが必要です。

## (2) 外来種

2024年度の調査では、市内の樹林、草地、水辺、人工的な環境などにおいて、外来種が広範囲にわたって確認されました。外来種には、地域の生態系を大きく変化させるおそれがあるものも含まれているため、その分布状況や市内での生育・生息環境を把握することは重要です。分類群ごとに、それぞれ確認された外来種（一般的な外来種を含む）の特徴を以下にまとめます。

### 【植 物】

市内では、各地に植栽された植物が逸出し、定着している例が多く確認されました。樹林では、林内や林縁に侵入し、在来の植物との競合が懸念される種が確認されました。また、水辺では、水流を利用して拡散する種が見られました。さらに、芝生などの草地では、多くの外来草本が繁茂する様子が確認されました。これらの種は、繁殖力が高く、在来の植物を駆逐する可能性があるため、適切な管理が求められます。

- 各地に植栽され、逸出した種：

＜高木＞

シュロ、トウネズミモチ、ニワウルシ、トウカエデ、ビワなど

＜低木・つる植物＞

ツルニチニチソウ、ボタンクサギ、キウイフルーツなど

- 路傍や空き地などに繁茂する種：オオキンケイギク、セイタカアワダチソウ、ヒメジョオン、ハルジオン、オオアレチノギク、ヨウシュヤマゴボウ、オオブタクサなど
- 樹林に生育する種：ノハカタカラクサ、イヌカタヒバなど
- 芝生などの草地に繁茂する種：ネズミムギ、シロツメクサ、ムラサキカタバミ、タチイヌノフグリなど
- 湿地に生育する種：キショウブ、アメリカセンダングサ、メリケンガヤツリなど



外来草本が多く確認された草地



空き地などでよく見られる  
ヨウシュヤマゴボウ



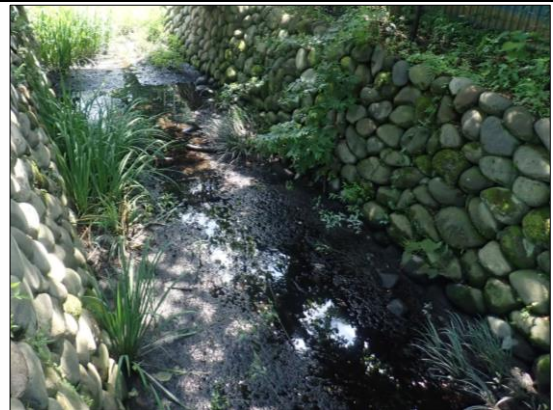
### 【哺乳類】

市街地周辺で、全国的に分布域や個体数が増加傾向にある外来の哺乳類が確認されました。これらの種は、人間の生活圏にも影響をおよぼす可能性があるため、徹底した管理が必要です。

- 古くから市街地周辺に定着している種：クマネズミ属、ハクビシン
- 全国的に増加傾向にある種：アライグマ



市街地にある公園で撮影された  
アライグマ



アライグマの足跡が確認された湿地

### 【鳥 類】

市街地の緑地や、ササ藪のある環境を生息環境とする外来の鳥類が確認されました。特に、都市環境への適応が進んでいる種が多くの調査地区で確認されました。これらの鳥類は、在来の生物相に影響を与える可能性があるため、今後も生息状況のモニタリングが必要です。

- 市街地の公園などの植栽を利用する種：カワラバト、ワカケホンセイインコ
- 低木やササが茂る樹林に生息する種：ガビチョウ



多くの調査地区で確認されたカワラバト



鳥類の外来種がよく見られる植栽



### 【爬虫類・両生類】

水辺では、最近の研究により外来種であることが示唆されているクサガメが確認されました。クサガメ以外にも、市街地の水辺ではペット由来と考えられる種の定着が懸念されます。これらの種は、在来種と競合する可能性もあるため、定着状況の調査と適切な対策が必要です。

#### ・水辺環境を利用する種：クサガメ



#### ■ クサガメ

流れの緩やかな河川や低地の湖沼に生息します。基本的に昼行性で日光浴を好みますが、夏季の晴天時には暑さを避けて、早朝や夕方によく活動します。雑食性で、水草、水生昆虫、甲殻類、ミミズ、カエル、魚類などさまざまなものを食べます。本州から九州にかけて生息しており、かつては在来種と考えられていましたが、化石や文献、遺伝子を調べた結果、最近では18世紀末に移入された外来種であると考えられています。

### 【昆虫類・クモ類】

樹林や草地では、近年日本に侵入し、急激に増加している昆虫類が多く確認されました。一部の種は、特定の樹木や植物と強い関係を持ち、在来の昆虫類の生息環境に影響を与える可能性があります。特に、市街地周辺の公園や緑地では、街路樹や園芸植物を利用する外来昆虫の定着が進んでおり、分布の拡大が懸念されます。

#### ・樹林を利用する種：

＜さまざまな樹種を利用する種＞

アオマツムシ、キマダラカメムシ、チュウゴクアミガサハゴロモなど

＜特定の植物を利用する種＞

アカボシゴマダラ（エノキ）、アメリカピンクノメイガ（サルビア類）など

#### ・農地や草地に生息する種：アワダチソウゲンバイ、モンクチビルテントウ、クモガタテントウ、アズキマメゾウムシなど

#### ・人工物を利用する種：ハイイロゴケグモ、アメリカジガバチなど

#### ・生ゴミなどを利用する種：クロゴキブリ、アメリカミズアブなど



近年急激に日本での分布を拡げている  
チュウゴクアミガサハゴロモ



ブルーサルビアなどから発生する  
アメリカピンクノメイガ

#### 【水生動物】

河川や池では、流れの緩やかな水域を利用する水生動物が確認されました。魚類では、国内外来種を含む人為的な放流による外来種も確認されました。これらの種には、水質や水辺の環境を大きく変えるおそれがあるものも含まれるため、今後の分布拡大を防ぐための適切な管理が求められます。

- 国内外来種である魚類：カワムツ、ドンコ
- 国外外来種である魚類：コイ、グッピー
- 飼育品種である魚類：キンギョ、メダカ
- 魚類以外の水辺に生息する種：アメリカザリガニ、フロリダマミズヨコエビなど



水質悪化を引き起こすコイの群れ



都内では国内外来種であるドンコ

#### 確認された外来種のまとめ

2024年度の調査では、市内のさまざまな環境で外来種が確認されました。特に、市街地の公園などの緑地や水辺では、多くの外来種が侵入・定着していることが明らかになりました。外来種の存在は、在来種を減少させ、生態系の変化を引き起こす原因となる可能性があるため、適切なモニタリングと管理が求められます。今後も、市民の協力を得ながら生育・生息状況を把握し、対策を進めていくことが重要です。

## 2. 調査地域の視点からのまとめ

今回の生きもの調査における市内 12 箇所の各調査地区について、確認された動植物種の傾向を含め、「樹林」「草地」「水辺」「その他」の各ビオトープタイプの観点に注目して、以下のとおり整理しました。

### ①吉祥寺地域

本地域からは、都立公園の「井の頭恩賜公園」、市立公園の「吉祥寺の杜・宮本小路公園」のほか、「成蹊大学」の 3 地区を抽出して調査を実施しました。

### ②中央地域

本地域からは、都立公園の「武蔵野中央公園」、市立公園の「西久保公園」、「関前公園（関前緑道）」の 3 地区を抽出して調査を実施しました。

### ③武蔵境地域

本地域からは、都立公園の「小金井公園」、市立公園の「境山野緑地（公園）」、「農業ふれあい公園」、水辺環境として「亜細亜大学」、「千川上水」、「仙川（桜堤公園）」の 6 地区を抽出して調査を実施しました。






## ①吉祥寺地域

### 【井の頭恩賜公園】

現地写真					
					
	ビオトープ タイプ	樹林 ●	草地 ○	水辺	その他
	確認された 動植物	<ul style="list-style-type: none"><li>・植物は、樹林性の種が豊富で 248 種と今回の調査地区の中では最多の確認種数でした。</li><li>・哺乳類は、2 種が確認されました。</li><li>・鳥類は、緑地でよく見られる種を中心に 15 種が確認されました。</li><li>・爬虫類は 3 種が確認され、両生類は確認されませんでした。</li><li>・昆虫類・クモ類は、落葉広葉樹林でよく見られる種を中心に 206 種（昆虫類：171 種、クモ類：35 種）が確認されました。</li></ul>			
地区の特色 と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・樹林を主な環境とする調査地区です。</li><li>・樹林林床では、菌類の生えた朽木や堆積した落ち葉、植え込みなどが見られたほか、樹木が枯死してギャップとなっている箇所も確認されました。</li><li>・樹林内では、希少在来植物を保護するための枠が設けられている箇所があります。</li><li>・調査地区の外側には、井の頭自然文化園などの樹林のほか、玉川上水や井の頭池といった水辺があります。</li><li>・マツ枯れやナラ枯れで枯死した樹木の伐採による疎林化が目立つため、植林や森林病虫害の防除により、引き続き樹林性の希少種が生育・生息できる環境を維持することが求められます。</li><li>・ほかの調査地区と比較して、来園者が多いと考えられるため、人の移動に伴って種子が運ばれることで分布域を拡大させている植物の外来種に注意する必要があります。</li></ul>				



【成蹊大学】



現地写真	<div>春</div> 		<div>夏</div> 		
	<div>秋</div> 		<div>冬</div> 		
	ビオトープ タイプ	樹林 ●	草地 ●	水辺	その他 ○（校舎）
	確認された 動植物	<ul style="list-style-type: none"><li>・植物は、植栽由来の種を中心に 208 種が確認されました。</li><li>・哺乳類は、2 種が確認されました。</li><li>・鳥類は、12 種が確認されました。</li><li>・爬虫類は 1 種が確認され、両生類は確認されませんでした。</li><li>・昆虫類・クモ類は、163 種（昆虫類：151 種、クモ類：12 種）が確認されました。</li></ul>			
地区の特色 と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・大学の校舎などの人工構造物や芝生の広場、植樹帯を主な環境とする調査地区です。</li><li>・調査地区北部では、植栽されたケヤキ、ソメイヨシノなどから成る樹林も見られました。</li><li>・調査地区の外側は主に住宅地であり、北には耕作地があります。</li><li>・広い芝生が、多くの外来種の生育・生息における基盤となっています。</li><li>・植栽由来の外来植物が目立ったため、植栽された植物が逸出しないような適切な管理が必要です。</li></ul>				

【吉祥寺の杜・宮本小路公園】

現地写真	 			
	 			
	ビオトープ タイプ	樹林	草地	水辺
		●	●	
確認された 動植物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物は、路傍などで見られる草本類が多く、134 種が確認されました。</li> <li>・哺乳類は、1 種のみが確認されました。</li> <li>・鳥類は、8 種が確認されました。</li> <li>・爬虫類は 1 種が確認され、両生類は確認されませんでした。</li> <li>・昆虫類・クモ類は、市街地でよく見られる外来種を中心に 108 種（昆虫類：97 種、クモ類：11 種）が確認されました。</li> </ul>			
地区の特色 と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植樹帯、草地を主な環境とする調査地区です。</li> <li>・調査地区中央部には藤棚、北東部には柵で囲われた竹林が見られます。</li> <li>・調査地区の外側は主に住宅地であり、周囲にまとまった緑地は少ないです。</li> <li>・調査地区は市街地に存在するため、市街地でよく見られる外来の植物が多く確認されました。</li> </ul>			

## ②中央地域

### 【西久保公園】

現地写真	<div>春</div> 		<div>夏</div> 		
	<div>秋</div> 		<div>冬</div> 		
	ビオトープ タイプ	樹林 ●	草地 ●	水辺	その他
	確認された 動植物	<ul style="list-style-type: none"><li>・植物は、路傍などで見られる草本類が多く、112 種が確認されました。</li><li>・哺乳類は、無人撮影カメラで多くの種が確認され、6 種と今回の調査地区の中では最多の確認種数でした。</li><li>・鳥類は、10 種が確認されました。</li><li>・爬虫類は 2 種が確認され、両生類は確認されませんでした。</li><li>・昆虫類・クモ類は、植栽由来の木本でよく見られる種など、144 種（昆虫類：128 種、クモ類：16 種）が確認されました。</li></ul>			
地区の特色 と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・樹林、草地を主な環境とする調査地区です。</li><li>・調査地区中央部には低茎草地の広場があり、北部には遊具が設置されたゾーンがあります。</li><li>・調査地区の外側としては、南に玉川上水が流れており、本公園は玉川上水緑道と隣接しています。</li><li>・調査地区は市街地に存在するため、市街地でよく見られる外来の植物が多く確認されています。</li><li>・アライグマなど、玉川上水を移動経路として侵入する可能性のある哺乳類の外来種の動向を注視する必要があります。</li></ul>				



【関前公園（関前緑道）】

現地写真					
					
	ビオトープ タイプ	樹林 ●	草地 ●	水辺 ●	その他
	確認された 動植物	<ul style="list-style-type: none"><li>・植物は、樹林や草地、路傍などを生育環境とする 124 種が確認されました。</li><li>・哺乳類は、1 種のみが確認されました。</li><li>・鳥類は、水辺に生息する種を含む 11 種が確認されました。</li><li>・爬虫類は 2 種が確認され、両生類は確認されませんでした。</li><li>・昆虫類・クモ類は、トンボ類など 162 種（昆虫類：142 種、クモ類：20 種）が確認されました。</li><li>・水生動物は、トンボ池を中心として 21 種が確認されました。</li></ul>			
地区の特色 と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・樹林、草地、水辺といったさまざまな環境が存在する調査地区です。</li><li>・調査地区内には人工的な滝や流れ、池があります。</li><li>・調査地区は武蔵野中央公園から南側にのびる関前緑道の一部であり、外側には住宅地や農地が広がっています。</li><li>・トンボ池では、遺棄されたと考えられるホテイアオイやオオカナダモ、放流されたと考えられるキンギョやグッピーが確認されたため、栽培・飼育できなくなった動植物を野外に放すのを防止する必要があります。</li></ul>				





【武蔵野中央公園】

現地写真	<div>春</div> 			
	<div>夏</div> 			
	<div>秋</div> 			
	<div>冬</div> 			
ビオトープ タイプ	樹林	草地	水辺	その他
	●	●		○（植込み）
確認された 動植物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物は、植栽由来の種を中心に、208 種が確認されました。</li> <li>・哺乳類は、1 種のみが確認されました。</li> <li>・鳥類は、住宅地の緑地でよく見られる種を中心に 16 種が確認されました。</li> <li>・爬虫類は 3 種が確認され、両生類は確認されませんでした。</li> <li>・昆虫類・クモ類は、植込みの園芸植物に訪花する種など、162 種（昆虫類：144 種、クモ類：18 種）が確認されました。</li> </ul>			
地区の特色 と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹林、草地、人工構造物などから成る調査地区です。</li> <li>・調査地区中央部は芝生となっており、北部にはグラウンド、西部にはテニスコートといった人工的な環境が広がっています。</li> <li>・調査地区の外側としては、南に関前緑道、北に樹林をとまなう「NTT 武蔵野研究開発センタ」が位置しており、動物が行き来している可能性があります。</li> <li>・「武蔵野台地のすすき原エリア」といった在来植物を植栽・保全するエリアがあります。</li> <li>・広い低茎草地が、多くの外来種の生育・生息における基盤となっています。</li> <li>・ナラ枯れが確認されたため、カシノナガキクイムシの防除などの対策により、樹林を保全し、引き続き樹林性の希少種が生息できる環境を維持することが重要です。</li> </ul>			

### ③武蔵境地域

【亜細亜大学】

現地写真	<div><div><div>春</div></div><div><div>夏</div></div><div><div>秋</div></div><div><div>冬</div></div></div>			
ビオトープ タイプ	樹林 ●	草地 ○	水辺 ●	その他 ○（校舎、石垣）
確認された 動植物	<ul style="list-style-type: none"><li>・植物は、植栽由来の木本や湿地性の草本が多く、146 種が確認されました。</li><li>・哺乳類は、4 種が確認されました。</li><li>・鳥類は、11 種が確認されました。</li><li>・爬虫類は校舎や石垣を利用する 4 種が確認され、両生類は確認されませんでした。</li><li>・昆虫類・クモ類は、湿地性の草本などから 132 種（昆虫類：117 種、クモ類：15 種）が確認されました。</li><li>・水生動物は、底生動物を中心に 10 種が確認されました。</li></ul>			
地区の特色 と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・大学の校舎などの人工構造物やその周辺の植樹帯、仙川から成る調査地区です。</li><li>・調査地区内には、仙川が流れており、湿性草地が見られます。</li><li>・調査地区の外側は住宅地や耕作地が主ではあるものの、北に仙川緑地や古瀬公園などのまとまった緑地が見られます。</li><li>・植生遷移の進行などによる止水の乾燥化を防ぎ、安定した止水の環境を創出する必要があります。</li><li>・放流されたと考えられるキンギョが確認されたため、飼育できなくなった魚類などを野外に放すのを防止する必要があります。</li></ul>			

【境山野緑地（公園）】

現地写真	<div>春</div> 			
	<div>夏</div> 			
	<div>秋</div> 			
	<div>冬</div> 			
ビオトープ タイプ	樹林	草地	水辺	その他
	●	○		
確認された 動植物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物は、雑木林で見られる種を中心に 184 種が確認されました。</li> <li>・哺乳類は、3 種が確認されました。</li> <li>・鳥類は、13 種が確認されました。</li> <li>・爬虫類は 3 種が確認され、両生類は確認されませんでした。</li> <li>・昆虫類・クモ類は、樹林性の種が豊富で 240 種（昆虫類：208 種、クモ類：32 種）と今回の調査地区の中では最多の確認種数でした。</li> </ul>			
地区の特色 と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹林を主な環境とする調査地区です。</li> <li>・落葉広葉樹林と竹林が存在しています。</li> <li>・調査地区の外側としては、北に玉川上水が流れており、玉川上水緑道が近くにあります。</li> <li>・植生調査・保護のためにロープ柵で立入りを制限している箇所があります。</li> <li>・樹林に生育・生息する在来種が多く確認されましたが、カシノナガキクイムシも多く確認されたため、今後ナラ枯れによる樹木の衰弱に注意が必要です。</li> </ul>			



【農業ふれあい公園】

現地写真	<div>春</div> 			
	<div>夏</div> 			
	<div>秋</div> 			
	<div>冬</div> 			
ビオトープ タイプ	樹林	草地	水辺	その他
	●	●	○	●（植込み、長屋門）
確認された 動植物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物は、植栽由来の種を中心に 151 種が確認されました。</li> <li>・哺乳類は、2 種が確認されました。</li> <li>・鳥類は、10 種が確認されました。</li> <li>・爬虫類は 2 種が確認され、両生類は確認されませんでした。</li> <li>・昆虫類・クモ類は、植栽を利用する外来種が多く、113 種（昆虫類：99 種、クモ類：14 種）が確認されました。</li> <li>・水生動物は、止水域と水路で 14 種が確認されました。</li> </ul>			
地区の特色 と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草地、人工構造物といった環境を含む調査地区です。</li> <li>・調査地区内には、小規模ですが人工的な流れや止水域といった水辺も存在しています。</li> <li>・調査地区の外側は住宅地と耕作地に囲まれており、それよりさらに北に千川上水、南に玉川上水が流れています。</li> <li>・植栽由来の外来植物が目立ったため、植栽された植物が逸出しないような適切な管理が必要です。</li> <li>・放流されたと考えられるエビ類が確認されたため、飼育できなくなった動物を野外に放すのを防止する必要があります。</li> </ul>			



【千川上水】

現地写真	<div>春</div> 			
	<div>夏</div> 			
	<div>秋</div> 			
	<div>冬</div> 			
ビオトープ タイプ	樹林	草地	水辺	その他
	●		●	○（橋脚）
確認された 動植物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物は、植栽由来の木本が多く、122 種が確認されました。</li> <li>・哺乳類は、3 種が確認されました。</li> <li>・鳥類は、住宅地の緑地でよく見られる種を中心に 10 種が確認されました。</li> <li>・爬虫類は 1 種が確認され、両生類は確認されませんでした。</li> <li>・昆虫類・クモ類は、街路樹でよく見られる種を中心に 147 種（昆虫類：129 種、クモ類：18 種）が確認されました。</li> <li>・水生動物は魚類が多く確認され、全体で 23 種と今回の調査地区の中では最多の確認種数でした。</li> </ul>			
地区の特色 と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植樹帯、水辺を主な環境とする調査地区です。</li> <li>・調査地区は千川上水の一部とその周囲の緑地から成り、環境は単調です。</li> <li>・調査地区は車道に挟まれており、外側には住宅地と耕作地が広がっています。</li> <li>・調査地区は市街地に存在するため、市街地でよく見られる外来の植物が多く確認されています。</li> <li>・人為的に放流されたと考えられるコイや、国内外来種であるカワムツ、ドンコが確認されたため、このような放流個体の個体数の増加や生息域の拡大に注意する必要があります。</li> </ul>			

【仙川（桜堤公園）】

現地写真	 <p>春</p>	 <p>夏</p>		
	 <p>秋</p>	 <p>冬</p>		
ビオトープ タイプ	樹林 ●	草地 ○	水辺 ●	その他 ○（石垣）
確認された 動植物	<ul style="list-style-type: none"><li>・植物は、植栽由来の種や、仙川の湿生植物が多く、191 種が確認されました。</li><li>・哺乳類は、4 種が確認されました。</li><li>・鳥類は、住宅地の緑地でよく見られる 12 種が確認されました。</li><li>・爬虫類は 2 種が確認され、両生類は 1 種が確認されました。</li><li>・昆虫類・クモ類は、湿性草地でよく見られる種を中心に 140 種（昆虫類：129 種、クモ類：11 種）が確認されました。</li><li>・水生動物は、仙川の瀬切れや人工池の止水域で 15 種が確認されました。</li></ul>			
地区の特色 と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・植樹帯、草地、水辺、人工構造物（公園）といったさまざまな環境から成る調査地区です。</li><li>・調査地区内には、仙川の流水環境、瀬切れによってできた止水環境があります。</li><li>・ヨシなどの湿性草地が形成されている場所もあります。</li><li>・調査地区北西部には池があり、湿生植物が植栽されています。</li><li>・調査地区の外側には、植樹帯のある団地や小・中学校があります。</li><li>・調査地区は市街地に存在するため、市街地でよく見られる外来の植物が多く確認されています。</li><li>・植生遷移の進行による湿地の乾燥化を防ぎ、カエル類の繁殖に適した止水を保全する必要があります。</li><li>・放流されたと考えられるキンギョや品種改良されたメダカが確認されたため、飼育できなくなった魚類などを野外に放すのを防止する必要があります。</li></ul>			



【小金井公園】

現地写真					
					
	ビオトープ タイプ	樹林 ●	草地 ●	水辺	その他
	確認された 動植物	<ul style="list-style-type: none"><li>・植物は、路傍などでよく見られる種を中心に 182 種が確認されました。</li><li>・哺乳類は、2 種が確認されました。</li><li>・鳥類は、樹林性の種が豊富で 19 種と今回の調査地区の中では最多の確認種数でした。</li><li>・爬虫類は 4 種が確認され、両生類は確認されませんでした。</li><li>・昆虫類・クモ類は、樹林に生息する種と草地に生息する種がバランスよく、191 種（昆虫類：169 種、クモ類：22 種）が確認されました。</li></ul>			
地区の特色 と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・樹林、草地、人工構造物から成る調査地区です。</li><li>・テニスコートや野球場といった運動場が調査地区の多くを占めていますが、調査地区にはまとまった樹林や草地が存在しています。</li><li>・調査地区の外側としては、南に玉川上水が流れているほか、本公園の小金井市域には、バードサンクチュアリがあります。</li><li>・調査地区は市街地に存在するため、市街地でよく見られる外来の植物が多く確認されています。</li><li>・ほかの調査地区と比較して、来園者が多いと考えられるため、人の移動に伴って種子が運ばれることで分布域を拡大させている植物の外来種に注意する必要があります。</li></ul>				

# 資料編（確認種リスト）

## 植物（1/12）

No.	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
			環境省 RL	東京都 RDB （北多摩）	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
1	イワヒバ	イヌカタヒバ					外
2	トクサ	スギナ					
3		トクサ					植
4	ハナヤスリ	フユノハナワラビ					
5	カニクサ	カニクサ					
6	イノモトソウ	ホウライシダ					外
7		イノモトソウ					
8	チャセンシダ	トラノオシダ					
9	ヒメシダ	ミドリヒメワラビ					
10		ゲジゲジシダ（広義）					
11		ホシダ					
12		ヒメシダ					
13	メシダ	イヌワラビ					
14		ヤマイヌワラビ					
15	オシダ	ナガバヤブソテツ					
16		ヤブソテツ					
17		ベニシダ					
18		オクマワラビ					
19	ウラボシ	ヒメノキシノブ					
20		ノキシノブ（広義）					
21	イチョウ	イチョウ					植逸
22	マツ	モミ					植
23		ヒマラヤスギ					植
24		ドイツトウヒ					植
25		アカマツ					植
26		リギダマツ					植
27		クロマツ					植
28	マキ	イヌマキ					植
29		ラカンマキ					植
30	ヒノキ	ヒノキ					植
31		サワラ					植
32		スギ					植
33		イブキ					植
34		カイツカイブキ					植
35		コノテガシワ					植
36		イトヒバ					植
37	イチイ	イヌガヤ					植
38		イチイ					植
39		キャラボク					植
40		カヤ					植逸
41	マツブサ	シキミ					植
42		サネカズラ					
43	センリョウ	ヒトリシズカ					植
44		センリョウ					植
45	ドクダミ	ドクダミ					
46	ウマノスズクサ	カンアオイ属					植
47	モクレン	ユリノキ					植逸
48		ハクモクレン					植
49		タイサンボク					植



植物 (2/12)

No.	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
			環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
50	モクレン	コブシ					植を含む
51		シモクレン					植
52		ホオノキ					植
53	ロウバイ	ソシンロウバイ					植
54	クスノキ	クスノキ					植
55		ヤブニッケイ					植
56		ゲッケイジュ					植
57		ヤマコウバシ					植を含む
58		タブノキ					植
59		シロダモ					植を含む
60	ショウブ	ショウブ					植
61		セキショウ					植
62	サトイモ	ムサシアブミ					植
63		カラスビシャク					
64	トチカガミ	オオカナダモ				国外・総合対策	外
65	ヤマノイモ	ヤマノイモ					
66		オニドコロ					
67	イヌサフラン	ハウチャクソウ					植
68		チゴユリ					
69	サルトリイバラ	サルトリイバラ					
70		タチシオデ					
71		シオデ					
72	ユリ	ウバユリ					
73		シンテッポウユリ				国外・総合対策	外
74		オニユリ					植
75		ホトトギス（園芸品種）					植
76	ラン	シラン					植
77		シロバナシラン					植
78		エビネ	NT	VU			植を含む
79		キンラン	NT	NT			
80		シュンラン					
81		マヤラン	VU				
82		オニノヤガラ		EN			
83	アヤメ	ヒメヒオウギズイセン				国外・総合対策	外
84		ハナショウブ					植
85		シャガ					植
86		キショウブ				国外・総合対策	外
87		アヤメ					植
88		ニワゼキショウ					外
89	ススキノキ	ワスレグサ属					植
90	ヒガンバナ	アガパンサス					植
91		ノビル					
92		ニラ					逸
93		ヒガンバナ					植
94		キツネノカミソリ					植
95		タマスダレ					外
96	クサスギカズラ	ハラン					植
97		ツルボ					
98		ドイツスズラン					外
99		オオバギボウシ					植を含む
100		ギボウシ（園芸品種）					植

植物 (3/12)

No.	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
			環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
101	クサスギカズラ	ヒメヤブラン					
102		ヤブラン					植を含む
103		フィリヤブラン					植
104		ジャノヒゲ					植を含む
105		カブダチジャノヒゲ					植
106		ナガバジャノヒゲ					植
107		キチジョウソウ					植
108		オモト					植
109		ナギイカダ					外
110		イトラン属					植
111	ヤシ	シュロ				国内・総合対策	外
112	ツユクサ	ツユクサ (広義)					
113		ヤブミョウガ					
114		ノハカタカラクサ				国外・総合対策	外
115		ムラサキツユクサ					外
116	ミズアオイ	ホテイアオイ				国外・総合対策	外
117	クズウコン	ミズカンナ					外
118	ショウガ	ミョウガ					植逸
119	ガマ	ヒメガマ					
120	イグサ	クサイ					
121	カヤツリグサ	エナシヒゴクサ					
122		ヒメカンスゲ					
123		マスクサ					
124		カワラスゲ					
125		ジュズスゲ					
126		ヒゴクサ					
127		ナキリスゲ					植
128		コジュズスゲ					
129		チャガヤツリ					
130		ヒメクグ					
131		メリケンガヤツリ				国外・総合対策	外
132		カヤツリグサ					
133		ハマスゲ					
134		カンガレイ		VU			
135		マツカサススキ		EN			
136	イネ	ヌカボ					
137		メリケンカルカヤ				国外・総合対策	外
138		コブナグサ					
139		イヌムギ					外
140		キツネガヤ					
141		ノゲイヌムギ					
142		メヒシバ					
143		コメヒシバ					
144		アキメヒシバ					
145		イヌビエ					
146		オヒシバ					
147		アオカモジグサ					
148		カモジグサ					
149		シナダレスズメガヤ				国外・総合対策	外
150		カゼクサ					
151		コスズメガヤ					外

植物 (4/12)

No.	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
			環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
152	イネ	トボシガラ					
153		ムギクサ					外
154		チガヤ					
155		ササガヤ					
156		ネズミムギ				国外・産業管理	外
157		ホソムギ				国外・産業管理	外
158		ササクサ					
159		アシボソ					
160		ススキ					植を含む
161		コネズミガヤ					外
162		コチヂミザサ					
163		ケチヂミザサ					
164		ヌカキビ					
165		オオクサキビ				国外・総合対策	外
166		シマスズメノヒエ				国外・総合対策	外
167		スズメノヒエ					
168		タチスズメノヒエ				国外・総合対策	外
169		チカラシバ					
170		クサヨシ					
171		ヨシ					
172		モウソウチク				国外・産業管理	外
173		アズマネザサ					植
174		ミゾイチゴツナギ					
175		スズメノカタビラ					
176		オオイチゴツナギ					
177		ナガハグサ					外
178		オオスズメノカタビラ					外
179		ヤダケ					植
180		メダケ					
181		クマザサ					植
182		オニウシノケグサ				国外・産業管理	外
183		ヒロハノウシノケグサ					外
184		イヌアワ					
185		アキノエノコログサ					
186		オオエノコロ					
187		エノコログサ					
188		オカメザサ					植
189		ネズミノオ					
190		ナギナタガヤ				国外・産業管理	外
191		シバ					植逸
192	ケシ	クサノオウ					
193		ムラサキケマン					
194		タケニグサ					
195	アケビ	ナガミヒナゲシ					外
196		アケビ					
197	ツツラフジ	アオツツラフジ					
198	メギ	ヒイラギナンテン				国外・総合対策	外
199		イカリソウ					植
200		ホソバヒイラギナンテン					外
201		ナンテン					植逸
202		オタフクナンテン					植



植物 (5/12)

No.	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
			環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
203	キンポウゲ	サラシナショウマ		VU			
204		ボタンツル					
205		コボタンツル					
206		センニンソウ					
207		セリバヒエンソウ					外
208		クリスマスローズ					植
209		ケキツネノボタン					
210	ツゲ	フッキソウ					植
211	フウ	モミジバフウ					植
212	マンサク	ヒュウガミズキ					植
213		トサミズキ					植
214		トキワマンサク					植
215		ベニバナトキワマンサク					植
216	カツラ	カツラ					植
217	ユズリハ	ユズリハ					植
218	ユキノシタ	ユキノシタ					植逸
219	ベンケイソウ	オカタイトゴメ					外
220		ツルマンネングサ					外
221	タコノアシ	タコノアシ	NT	NT			
222	ブドウ	ノブドウ					
223		ヤブカラシ					
224		ツタ					
225		エビツル					
226	マメ	ネムノキ					
227		ヤブマメ					
228		カワラケツメイ					植
229		アレチヌスビトハギ				国外・総合対策	外
230		ノササゲ					
231		フジカンゾウ					
232		ヌスビトハギ					
233		ヤハズソウ					
234		ヤマハギ					
235		メドハギ					植を含む
236		ネコハギ					植を含む
237		ハリエンジュ				国外・産業管理	外
238		エンジュ					外
239		シロツメクサ					外
240		ヤハズエンドウ					
241		ナヨクサフジ				国外・産業管理	外
242		フジ					植を含む
243	グミ	ツルグミ					
244		オオバグミ					
245		ナワシログミ					植
246		アキグミ					植を含む
247	ニレ	ハルニレ					逸
248		アキニレ					植逸
249		アケボノニレ					植
250		ケヤキ					植逸
251	アサ	ムクノキ					植逸を含む
252		エノキ					植逸を含む
253	クワ	ヒメコウゾ					植

植物 (6/12)

No.	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
			環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
254	クワ	クワクサ					
255		イヌビワ					
256		マグワ					外
257		ヤマグワ					
258	イラクサ	ヤブマオ					
259		カラムシ					
260		アカソ					
261	バラ	キンミズヒキ					
262		ザイフリボク					植
263		ジューンベリー					植
264		カンヒザクラ					外
265		エドヒガン					植
266		ヤマザクラ					植
267		オオシマザクラ					植
268		ソメイヨシノ					植
269		サクラ (園芸品種)					植
270		ボケ					植
271		ビワ				国外・産業管理	外
272		シモツケソウ					植
273		ヤマブキ					植
274		ハナカイドウ					植
275		イヌリンゴ					植
276		コゴメウツギ					
277		イヌザクラ					植
278		カナメモチ					植
279		ミツバツチグリ					
280		ヘビイチゴ					
281		ヤブヘビイチゴ					
282		カマツカ					植を含む
283		ウメ					植
284		モモ					植
285		スモモ					植
286		トキワサンザシ属					植
287		ナシ					植
288		シャリンバイ					植
289		シロヤマブキ					植
290		ノイバラ					
291		バラ (園芸品種)					植
292		クサイチゴ					
293		ナワシロイチゴ					
294		ニワナナカマド					植
295		コデマリ					植
296		シモツケ					植
297		ユキヤナギ					植
298	ブナ	クリ					植を含む
299		スタジイ					植
300		マデバシイ					植
301		クヌギ					植を含む
302		アラカシ					植
303		シラカシ					植を含む
304		ピンオーク					植

植物 (7/12)

No.	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
			環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
305	ブナ	ウバメガシ					植
306		コナラ					植を含む
307	ヤマモモ	ヤマモモ					植
308	クルミ	ペカン					植
309		オニグルミ					植を含む
310	カバノキ	クマシデ					植
311		アカシデ					植
312		イヌシデ					植を含む
313	ウリ	ニガウリ					植
314		カラスウリ					
315		キカラスウリ					
316		スズメウリ					
317	ニシキギ	ツルウメモドキ					
318		コマユミ					植を含む
319		マサキ					植
320		フイリマサキ					植
321		マユミ					植を含む
322	カタバミ	イモカタバミ					外
323		カタバミ					
324		ムラサキカタバミ					外
325		オッタチカタバミ					外
326		インカノカタバミ					植逸
327	トウダイグサ	エノキグサ					
328		コニシキソウ					外
329		アカメガシワ					
330	コミカンソウ	コミカンソウ					
331		ナガエコミカンソウ					外
332	ヤナギ	イイギリ					植逸
333	スミレ	タチツボスミレ					
334		マルバースミレ					
335		ツボスミレ					
336	オトギリソウ	ビヨウヤナギ					外
337	フウロソウ	アメリカフウロ					外
338		ゲンノショウコ					植
339	ミソハギ	サルスベリ					植
340		ミソハギ					植
341	アカバナ	ヤマモモソウ					外
342		メマツヨイグサ					外
343		コマツヨイグサ				国外・総合対策	外
344		ユウゲショウ					外
345		ヒルザキツキミソウ					外
346	フトモモ	アッカ属					植
347		ユーカリ属					植
348	ミツバウツギ	ゴンズイ					植を含む
349	ウルシ	ヌルデ					
350		ヤマウルシ					
351	ムクロジ	オオモミジ					植
352		ヤマモミジ					植
353		トウカエデ					外
354		イロハモミジ					植
355		トチノキ					植



植物 (8/12)

No.	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
			環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
356	ミカン	キンカン					植
357		カラスザンショウ					
358		サンショウ					植を含む
359		イヌザンショウ					
360	ニガキ	ニワウルシ				国外・総合対策	外
361		ニガキ					植
362	センダン	センダン					逸
363	アオイ	タチアオイ					外
364		カラスノゴマ					
365		アオギリ					植逸
366		フヨウ				国外・総合対策	外
367		ムクゲ					外
368		ゼニバアオイ					外
369		ボダイシュ					植
370	ジンチョウゲ	ジンチョウゲ					植
371		ミツマタ					植
372	アブラナ	ナズナ					
373		マメグンバイナズナ					外
374		ショカツサイ					外
375		イヌガラシ					
376		スカシタゴボウ					
377	タデ	イタドリ					
378		ヒメツルソバ				国外・総合対策	外
379		ミズヒキ					
380		ヤナギタデ					
381		イヌタデ					
382		ハナタデ					
383		ミチヤナギ					
384		スイバ					
385		アレチギシギシ					外
386		ギシギシ					
387		エゾノギシギシ				国外・総合対策	外
388	ナデシコ	ノミノツツリ					
389		オランダミミナグサ					外
390		ツメクサ					
391		ムシトリナデシコ				国外・総合対策	外
392		シロバナマンテマ					外
393		ウシハコベ					
394		コハコベ					外
395	ヒユ	イノコツチ					
396		ヒナタイノコツチ					
397		イヌビユ					
398		シロザ					
399		コアカザ					外
400		アリタソウ					外
401	ヤマゴボウ	ヨウシュヤマゴボウ					外
402	オシロイバナ	オシロイバナ					外
403	ザクロソウ	ザクロソウ					植
404	ハゼラン	ハゼラン					外
405	スベリヒユ	スベリヒユ					
406	ミズキ	ミズキ					植を含む

植物 (9/12)

No.	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
			環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
407	ミズキ	ハナミズキ					植
408		ヤマボウシ					植
409		サンシュユ					植
410	アジサイ	ウツギ					植を含む
411		マルバウツギ					植を含む
412		カシワバアジサイ					植
413		アジサイ					植
414		ガクアジサイ					植
415	サカキ	サカキ					植
416		ハマヒサカキ					植
417		ヒサカキ					植を含む
418		モッコク					植
419	カキノキ	カキノキ					植
420	サクラソウ	マンリョウ					植逸を含む
421		コナスビ					
422	ツバキ	ヤブツバキ					植を含む
423		サザンカ					植
424		カンツバキ					植
425		チャノキ					植逸
426	ハイノキ	サワフタギ					植を含む
427	エゴノキ	エゴノキ					植を含む
428		ハクウンボク					植
429	マタタビ	キウイフルーツ				国外・産業管理	外
430	リョウブ	リョウブ					植
431	ツツジ	ヒメイチゴノキ					植
432		ドウダンツツジ					植
433		アメリカシャクナゲ					植
434		セイヨウイワナンテン					植
435		アセビ					植
436		サツキ					植
437		ヤマツツジ					植
438		シャクナゲ類					植
439		ツツジ (園芸品種)					植
440	アオキ	アオキ					植を含む
441	アカネ	ヒメヨツバムグラ					
442		ヨツバムグラ					
443		ヘクソカズラ					
444		アカネ					
445		ハクチョウゲ					植
446	キョウチクトウ	ガガイモ					
447		キョウチクトウ					外
448		テイカカズラ					植を含む
449		ツルニチニチソウ				国外・総合対策	外
450		フィリツルニチニチソウ					植
451	ヒルガオ	コヒルガオ					
452		ヒルガオ					
453		マルバルコウ					外
454		マルバアサガオ				国外・総合対策	外
455	ナス	クコ					
456		ワルナスビ					外
457		ヒヨドリジョウゴ					

植物 (10/12)

No.	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
			環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
458	ナス	オオイヌホオズキ					外
459		イヌホオズキ					
460		タマサンゴ					外
461		アメリカイヌホオズキ					外
462	ムラサキ	ハナイバナ					
463		ヒレハリソウ					外
464		キュウリグサ					
465	モクセイ	シナレンギョウ					植
466		ネズミモチ					植
467		トウネズミモチ				国外・総合対策	外
468		イボタノキ					植
469		ヨウシュイボタ					外
470		オリーブ					植
471		ヒイラギモクセイ					植
472		キンモクセイ					植
473		ギンモクセイ					植
474		ヒイラギ					植を含む
475	オオバコ	ツタバウンラン					外
476		オオバコ					
477		ヘラオオバコ					外
478		タチイヌノフグリ					外
479		オオイヌノフグリ					外
480	ゴマノハグサ	フサフジウツギ				国外・総合対策	外
481	シソ	ジュウニヒトエ					
482		コムラサキ					植逸
483		ムラサキシキブ					植を含む
484		ボタンクサギ					外
485		クサギ					植を含む
486		トウバナ					
487		カキドオシ					
488		メハジキ					植
489		マルバハッカ					外
490		ヒメジソ					
491		レモンエゴマ					
492		シソ					逸
493		ハナトラノオ					外
494		マンネンロウ					植
495		コパノタツナミ					逸
496	サギゴケ	ムラサキサギゴケ					
497		トキワハゼ					
498	ハエドクソウ	ハエドクソウ					
499		ナガバハエドクソウ					
500	キツネノマゴ	アカンサス					植
501		キツネノマゴ					
502	ノウゼンカズラ	ノウゼンカズラ					植
503	モチノキ	セイヨウヒイラギ					植
504		イヌツゲ					植を含む
505		モチノキ					植
506		タラヨウ					植
507		アオハダ					植を含む
508		ソヨゴ					植

植物 (11/12)

No.	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
			環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
509	キキョウ	キキョウ					植
510		ヒナキキョウソウ					外
511	キク	ノブキ					
512		アゲラティナ属					植
513		ブタクサ					外
514		オオブタクサ				国外・総合対策	外
515		ヨモギ					
516		ノコンギク					
517		アメリカセンダングサ				国外・総合対策	外
518		コシロノセンダングサ					外
519		コセンダングサ					外
520		ヤブタバコ					
521		リュウノウギク				国外・総合対策	植
522		イソギク					植
523		ノハラアザミ					
524		ゼンブクジアザミ					植
525		オオキンケイギク			特定	国外・総合対策	外
526		ハルシャギク				国外・総合対策	外
527		コスモス					外
528		キバナコスモス					外
529		アメリカカタカサプロウ					外
530		ダンドボロギク					外
531		ヒメジョオン				国外・総合対策	外
532		ヒメムカシヨモギ					外
533		ハルジオン					外
534		オオアレチノギク					外
535		フジバカマ					植
536		ツワブキ					植
537		ハキダメギク					外
538		ホソバノチチコグサモドキ					外
539		ウラジロチチコグサ					外
540		チチコグサモドキ					外
541		ヒマワリ					外
542		イヌキクイモ					外
543		ブタナ					外
544		オオジシバリ					
545		アキノノゲシ					
546		ヤブタバコ					
547		フランスギク				国外・総合対策	外
548		ムラサキニガナ					
549		フキ					植
550		ハハコグサ					
551		メナモミ					
552		セイタカアワダチソウ				国外・総合対策	外
553		オニノゲシ					外
554		ノゲシ					
555		セイヨウタンポポ				国外・総合対策	外
556		カントウタンポポ					
557		アカオニタビラコ					
558		アオオニタビラコ					
559	ウコギ	ウド					



植物 (12/12)

No.	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
			環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
560	ウツギ	タラノキ					
561		カクレミノ					植
562		ヤマウコギ					
563		ヤツデ					植
564		カナリーキツタ					植
565		セイヨウキツタ					植
566		キツタ					
567		ノチドメ					
568		オオチドメ					
569		チドメグサ					
570	セリ	ミツバ					
571		セリ					
572		ハナカザリゼリ					逸
573		ヤブニンジン					
574		ウマノミツバ					
575		ヤブジラミ					
576		オヤブジラミ					
577	ガマズミ	ニワトコ					植を含む
578		ガマズミ					植を含む
579		サンゴジュ					植逸
580		ヤブデマリ					植
581	スイカズラ	ハナソノツクバネウツギ					植
582		ウグイスカグラ					植
583		ヤマウグイスカグラ					植を含む
584		スイカズラ					
585		ハコネウツギ					植
586		ニシキウツギ					植
587		ヤブウツギ					植
合計 129 科 587 種			4 種	7 種	1 種	43 種	—

注 1) 種名および分類は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 6 年度リスト」

(令和 6 年、国土交通省) に準拠した。

注 2) 希少種の選定基準は、以下のとおりである。

環境省 RL: 環境省報道発表資料 第 5 次レッドリスト (植物・菌類) の公表について:

(環境省、令和 7 年 3 月公表)

EX: 絶滅 CR: 絶滅危惧 IA 類 EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足

LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

東京都 RDB (北多摩): 東京都レッドデータブック (本土部) 2023 - 東京都の保護上重要な野生生物種

(本土部) 解説版 - 北多摩: (東京都、令和 5 年 3 月公表)

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧 IA 類 EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類

NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 \*: 留意種

注 3) 特に注意が必要な外来種の選定基準は、以下のとおりである。

特定外来生物: 特定外来生物による生態系などに係る被害の防止に関する法律: (環境省、平成 30 年 4 月公表)

特定: 特定外来生物 未判定: 未判定外来生物

生態系被害防止外来種リスト: 「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト

(生態系被害防止外来種リスト)」の公表について (お知らせ):

(環境省、平成 28 年 3 月公表)

国外: 国外由来の外来種 国内: 国内由来の外来種 定着予防: 定着を予防する外来種

総合対策: 総合的に対策が必要な外来種 産業管理: 適切な管理が必要な産業上重要な外来種

注 4) 備考欄に記した「植」、「逸」、「外」については以下のとおりである。

植: 植栽種 逸: 逸出種 外: 外来種

哺乳類

No.	目名	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
				環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
1	モグラ	モグラ	アズマモグラ					
2	コウモリ	ヒナコウモリ	ヒナコウモリ科 <sup>注4)</sup>					
3	ネズミ	ネズミ	クマネズミ属				国外・総合対策	外来種
4	ネコ	アライグマ	アライグマ			特定	国外・総合対策	外来種
5		イヌ	タヌキ					
6		ジャコウネコ	ハクビシン				国外・総合対策	外来種
合計 4 目 6 科 6 種				0 種	0 種	1 種	3 種	—

注 1) 種名および分類は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 6 年度リスト」

(令和 6 年、国土交通省) に準拠した。

注 2) 希少種の選定基準は、以下のとおりである。

環境省 RL：環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について：(環境省、令和 2 年 3 月公表)

EX：絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足

LP：絶滅のおそれのある地域個体群

東京都 RDB (北多摩)：東京都レッドデータブック (本土部) 2023 - 東京都の保護上重要な野生生物種

(本土部) 解説版 - 北多摩：(東京都、令和 5 年 3 月公表)

EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類

NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 \*：留意種

注 3) 特に注意が必要な外来種の選定基準は、以下のとおりである。

特定外来生物：特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律：(環境省、平成 30 年 4 月公表)

特定：特定外来生物 未判定：未判定外来生物

生態系被害防止外来種リスト：「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト

(生態系被害防止外来種リスト)」の公表について (お知らせ)：

(環境省、平成 28 年 3 月公表)

国外：国外由来の外来種 国内：国内由来の外来種 定着予防：定着を予防する外来種

総合対策：総合的に対策が必要な外来種 産業管理：適切な管理が必要な産業上重要な外来種

注 4) ヒナコウモリ科は、バットディテクターによって 45kHz 前後のエコーロケーションコールを確認したものである。

確認された環境から判断して、アブラコウモリの可能性が高いと推測される。

## 鳥類

No.	目名	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
				環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
1	カモ	カモ	カルガモ					
2	ハト	ハト	カワラバト(ドバト)					外来種
3			キジバト					
4	カツオドリ	ウ	カワウ					
5	タカ	タカ	トビ					
6			ツミ		VU			
7			ハイタカ	NT	VU			
8			オオタカ	NT	VU			
9	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ		NT			
10	キツツキ	キツツキ	コゲラ					
11			アオゲラ					
12	インコ	インコ	ワカケホンセイインコ <sup>注4)</sup>				国外・総合対策	外来種
13	スズメ	モズ	モズ		VU			
14		カラス	オナガ		NT			
15			ハシボソガラス					
16			ハシブトガラス					
17		シジュウカラ	シジュウカラ					
18		ツバメ	ツバメ					
19		ヒヨドリ	ヒヨドリ					
20		ウグイス	ウグイス					
21		エナガ	エナガ					
22		チメドリ	ガビチョウ			特定	国外・総合対策	外来種
23		メジロ	メジロ					
24		ムクドリ	ムクドリ					
25		ヒタキ	シロハラ					
26			ジョウビタキ					
27		スズメ	スズメ					
28		セキレイ	ハクセキレイ					
29		アトリ	シメ					
30			イカル		NT			
合計 8 目 21 科 30 種				2 種	7 種	1 種	2 種	—

注 1) 種名および分類は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 6 年度リスト」(令和 6 年、国土交通省)に準拠した。

注 2) 希少種の選定基準は、以下のとおりである。

環境省 RL：環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について：(環境省、令和 2 年 3 月公表)

EX：絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足

LP：絶滅のおそれのある地域個体群

東京都 RDB (北多摩)：東京都レッドデータブック (本土部) 2023 - 東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部) 解説版 - 北多摩：(東京都、令和 5 年 3 月公表)

EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類

NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 \*：留意種

注 3) 特に注意が必要な外来種の選定基準は、以下のとおりである。

特定外来生物：特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律：(環境省、平成 30 年 4 月公表)

特定：特定外来生物 未判定：未判定外来生物

生態系被害防止外来種リスト：「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト (生態系被害防止外来種リスト)」の公表について (お知らせ)：(環境省、平成 28 年 3 月公表)

国外：国外由来の外来種 国内：国内由来の外来種 定着予防：定着を予防する外来種

総合対策：総合的に対策が必要な外来種 産業管理：適切な管理が必要な産業上重要な外来種

注 4) 「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 6 年度リスト」(令和 6 年、国土交通省)では亜種区分せず、ホンセイインコ *Psittacula krameri* として掲載している。しかし、日本で定着が確認されているのは亜種ワカケホンセイインコ *P. k. manillensis* であり、生態系被害防止外来種リストでも本亜種が掲載されている。これらの状況から、今回は亜種ワカケホンセイインコとして扱うこととした。

# 爬虫類

No.	目名	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
				環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
1	カメ	イシガメ	クサガメ					外来種
2	有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ		*			
3		トカゲ	ヒガシニホントカゲ		VU			
4		カナヘビ	ニホンカナヘビ		VU			
5		ナミヘビ	アオダイショウ		NT			
合計 2 目 5 科 5 種				0 種	4 種	0 種	0 種	—

注 1) 種名および分類は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 6 年度リスト」

(令和 6 年、国土交通省) に準拠した。

注 2) 希少種の選定基準は、以下のとおりである。

環境省 RL: 環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について: (環境省、令和 2 年 3 月公表)

EX: 絶滅 CR: 絶滅危惧 IA 類 EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足

LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

東京都 RDB (北多摩): 東京都レッドデータブック (本土部) 2023 - 東京都の保護上重要な野生生物種

(本土部) 解説版 - 北多摩: (東京都、令和 5 年 3 月公表)

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧 IA 類 EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類

NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 \*: 留意種

注 3) 特に注意が必要な外来種の選定基準は、以下のとおりである。

特定外来生物: 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律: (環境省、平成 30 年 4 月公表)

特定: 特定外来生物 未判定: 未判定外来生物

生態系被害防止外来種リスト: 「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト

(生態系被害防止外来種リスト)」の公表について (お知らせ):

(環境省、平成 28 年 3 月公表)

国外: 国外由来の外来種 国内: 国内由来の外来種 定着予防: 定着を予防する外来種

総合対策: 総合的に対策が必要な外来種 産業管理: 適切な管理が必要な産業上重要な外来種

# 両生類

No.	目名	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
				環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
1	無尾	アカガエル	ニホンアカガエル		EN			
合計 1 目 1 科 1 種				0 種	1 種	0 種	0 種	—

注 1) 種名および分類は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 6 年度リスト」

(令和 6 年、国土交通省) に準拠した。

注 2) 希少種の選定基準は、以下のとおりである。

環境省 RL: 環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について: (環境省、令和 2 年 3 月公表)

EX: 絶滅 CR: 絶滅危惧 IA 類 EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足

LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

東京都 RDB (北多摩): 東京都レッドデータブック (本土部) 2023 - 東京都の保護上重要な野生生物種

(本土部) 解説版 - 北多摩: (東京都、令和 5 年 3 月公表)

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧 IA 類 EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類

NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 \*: 留意種

注 3) 特に注意が必要な外来種の選定基準は、以下のとおりである。

特定外来生物: 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律: (環境省、平成 30 年 4 月公表)

特定: 特定外来生物 未判定: 未判定外来生物

生態系被害防止外来種リスト: 「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト

(生態系被害防止外来種リスト)」の公表について (お知らせ):

(環境省、平成 28 年 3 月公表)

国外: 国外由来の外来種 国内: 国内由来の外来種 定着予防: 定着を予防する外来種

総合対策: 総合的に対策が必要な外来種 産業管理: 適切な管理が必要な産業上重要な外来種



昆虫類・クモ類 (1/16)

No.	目名	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
				環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来 生物	生態系 被害防止 外来種リスト	
1	クモ	ウスグモ	マネキグモ					
2		ヒメグモ	イワウキアシプトヒメグモ					
3			ヤホシヒメグモ					
4			ハイイロゴケグモ			特定	国外・総合対策	外来種
5			オダカグモ					
6			キヒメグモ					
7			カグヤヒメグモ					
8			ニホンヒメグモ					
9			キヨヒメグモ					
10			リュウキュウヒメグモ					
11			ハモンヒメグモ					
12			オオツリガネヒメグモ					
13			オオヒメグモ					
14			キベリミジグモ					
15			ハラギヒメグモ					
16		サラグモ	ハラジロムナキグモ					
17			マルムネヒザグモ					
18			ヘリジロサラグモ					
19		アシナガグモ	ジョロウグモ					
20			ヤサカタアシナガグモ					
21			アシナガグモ					
22			ウロコアシナガグモ					
23		コガネグモ	ヤエンオニグモ		DD			
24			ビジョオニグモ					
25			カラオニグモ					
26			オニグモ					
27			ムツボシオニグモ					
28			ナガコガネグモ					
29			ギンメッキゴミグモ					
30			ゴミグモ					
31			マルゴミグモ					
32			ドヨウオニグモ					
33			ワキグロサツマノミダマシ					
34			コゲチャオニグモ					
35			ヤマシロオニグモ					
36			サツマノミダマシ					
37		コモリグモ	イナダハリグコモリグモ					
38			ウツキコモリグモ					
39			ヒノマルコモリグモ					
40		キシダグモ	イオウイロハシリグモ					
41		ササグモ	ササグモ					
42		タナグモ	クサグモ					
43			コクサグモ					
44		ハグモ	ネコハグモ					
45		ガケジグモ	Coelotes 属					
46			シモフリヤチグモ					

昆虫類・クモ類 (2/16)

No.	目名	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
				環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来 生物	生態系 被害防止 外来種リスト	
47	クモ	ウエムラグモ	イタチグモ					
48			ヤバネウラシマグモ					
49		フクログモ	マダラフクログモ					
50			カギフクログモ					
51		ネコグモ	ネコグモ					
52		ワシグモ	Drassyllus 属					
53			シノノメトンビグモ					
54		エビグモ	キンイロエビグモ					
55			キハダエビグモ					
56			アサヒエビグモ					
57			シャコグモ					
58		カニグモ	キハダカニグモ					
59			コハナグモ					
60			クマダハナグモ					
61			ハナグモ					
62			ワカバグモ					
63			アズチグモ					
64			セマルトラフカニグモ					
65			ヤミイロカニグモ					
66		ハエトリグモ	マツモトハエトリ					
67			ネコハエトリ					
68			マミジロハエトリ					
69			アダンソンハエトリ					
70			ヨダンハエトリ					
71			シラヒゲハエトリ					
72			ヤガタアリグモ					
73			ヤサアリグモ					
74			アリグモ					
75			クワガタアリグモ					
76			チャイロアサヒハエトリ					
77			メスジロハエトリ					
78			デーニッツハエトリ					
79			ミスジハエトリ					
80			Rhene 属					
81			アオオビハエトリ					
82	カゲロウ	コカゲロウ	フタバカゲロウ					
83	トンボ	イトトンボ	ホソミイトトンボ					
84			アジアイトトンボ					
85			クロイトトンボ					
86		カワトンボ	ハグロトンボ					
87		トンボ	ショウジョウトンボ					
88			シオカラトンボ					
89			オオシオカラトンボ					
90			ウスバキトンボ					
91			コシアキトンボ					
92			コノシメトンボ					

昆虫類・クモ類 (3/16)

No.	目名	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
				環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来 生物	生態系 被害防止 外来種リスト	
93	トンボ	トンボ	ナツアカネ					
94			マユタテアカネ		NT			
95			アキアカネ					
96			ノシメトンボ					
97			ネキトンボ					
98	ゴキブリ	ゴキブリ	クロゴキブリ					外来種
99		チャバネゴキブリ	モリチャバネゴキブリ					
100	シロアリ	ミゾガシラシロアリ	ヤマトシロアリ					
101	カマキリ	カマキリ	ハラヒロカマキリ					
102			オオカマキリ					
103	ハサミムシ	マルムネハサミムシ	ヒゲジロハサミムシ					
104			コバネハサミムシ					
105			コヒゲジロハサミムシ					
106	バッタ	ツユムシ	ツユムシ					
107		キリギリス	ウスイロササキリ					
108			ホシササキリ					
109			ササキリ					
110			クビキリギス					
111			シブイロカヤキリ					
112		マツムシ	ヒロバネカンタン					
113			アオマツムシ					外来種
114		コオロギ	コオロギ科					
115		カネタタキ	カネタタキ					
116		ヒバリモドキ	マダラスズ					
117			シバスズ					
118		バッタ	ショウリョウバッタ					
119			ヒナバッタ					
120			ショウリョウバッタモドキ					
121			クルマバッタモドキ					
122			イボバッタ					
123		イナゴ	ハネナガイナゴ					
124		オンブバッタ	オンブバッタ					
125		ヒシバッタ	ハラヒシバッタ					
126	ナナフシ	ナナフシ	ヤスマツトビナナフシ					
127			ナナフシモドキ					
128	チャタテムシ	ケチャタテ	Valenzuela scriptus					
129		ホソチャタテ	ヒメクロホソチャタテ					
130		マドチャタテ	Ectopsocus 属					
131			Peripsocus 属					
132		チャタテ	Neopsocopsis 属					
133	カメムシ	ウンカ	ゴマフウンカ					
134			ヒメトビウンカ					
135			ホソミドリウンカ					
136			コブウンカ					
137		テングスケバ	ナカノテングスケバ					
138			テングスケバ					

昆虫類・クモ類 (4/16)

No.	目名	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
				環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来 生物	生態系 被害防止 外来種リスト	
139	カメムシ	アオバハゴロモ	アオバハゴロモ					
140			ヘリチャハゴロモ					外来種
141		マルウンカ	ヒロスクサビウンカ					外来種
142		ハゴロモ	スケバハゴロモ					
143			アミガサハゴロモ					
144			チュウゴクアミガサハゴロモ					外来種
145		グンバイウンカ	ミドリグンバイウンカ					
146		セミ	クマゼミ					
147			アブラゼミ					
148			ミンミンゼミ					
149			ツクツクボウシ					
150			ニイニイゼミ					
151			ヒグラシ					
152		ツノゼミ	マルツノゼミ					
153		トゲアワフキムシ	ムネアカアワフキ					
154		ヨコバイ	ツマグロオオヨコバイ					
155			オオヨコバイ					
156			ベニヒメヨコバイ					
157			オナガトガリヨコバイ					
158			クロミヤクイチモンジヨコバイ					
159			ヒトツメヒメヨコバイ					
160			ミスジトガリヨコバイ					
161			コチャイロヨコバイ					
162			オビヒメヨコバイ					
163			アカスジオビヒメヨコバイ					
164			Pagaronia 属					
165			ヒトツメヨコバイ					
166			クロスジホソサジヨコバイ					
167		キジラミ	オビキジラミ					
168			エノキカイガラキジラミ	NT				
169			ムツボシキジラミ					
170			Trioza 属					
171		サシガメ	ヨコツナサシガメ					外来種
172			アカサシガメ					
173			アカシマサシガメ					
174		グンバイムシ	エグリグンバイ					
175			アワダチソウグンバイ					外来種
176			ヤブガラシグンバイ					
177			ヘクソカズラグンバイ					外来種
178			キクグンバイ					
179			ナシグンバイ					
180			ツツジグンバイ					
181			トサカグンバイ					
182			ヒメグンバイ					
183		ハナカメムシ	ヤサハナカメムシ					
184			ナミヒメハナカメムシ					



昆虫類・クモ類 (5/16)

No.	目名	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
				環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来 生物	生態系 被害防止 外来種リスト	
185	カメムシ	カスミカメムシ	ヨツボシカスミカメ					
186			ヒメセダカカスミカメ					
187			アカホシカスミカメ					
188			Deraeocoris 属					
189			ケブカキベリナガカスミカメ					
190			オオクロトビカスミカメ					
191			ハギメンガタカスミカメ					
192			クスベニヒラタカスミカメ					外来種
193			ズアカシダカスミカメ					
194			キアシクロホソカスミカメ					
195			ヒョウタンカスミカメ					
196			クロヒョウタンカスミカメ					
197			オオクロセダカスミカメ					
198			クヌギトビカスミカメ					
199			グンバイカスミカメ					
200			ウスモンミドリカスミカメ					
201			イネホソミドリカスミカメ					
202		マキバサシガメ	ミナミマキバサシガメ					
203		オオホシカメムシ	ヒメホシカメムシ					
204		ホソヘリカメムシ	クモヘリカメムシ					
205			ヒメクモヘリカメムシ					
206			ニセヒメクモヘリカメムシ					
207			ホソヘリカメムシ					
208		ヘリカメムシ	ホオズキカメムシ					
209			ホソハリカメムシ					
210			ハリカメムシ					
211			オオクモヘリカメムシ					
212			ホシハラビロヘリカメムシ					
213			ツマキヘリカメムシ					
214			キバラヘリカメムシ					
215		ヒメヘリカメムシ	スカシヒメヘリカメムシ					
216			アカヒメヘリカメムシ					
217			ケブカヒメヘリカメムシ					
218			ブチヒメヘリカメムシ					
219		イトカメムシ	ヒメイトカメムシ					
220			イトカメムシ					
221		ナガカメムシ	セスジナガカメムシ					
222			ヒメコバネナガカメムシ					
223			ヒメオオメナガカメムシ					
224			ヨツボシヒョウタンナガカメムシ					
225			キベリヒョウタンナガカメムシ					
226			オオモンシロナガカメムシ					
227			オオチャイロナガカメムシ					
228			ヘリクロヒメナガカメムシ					
229			ヒメナガカメムシ					
230			ヒゲナガカメムシ					

昆虫類・クモ類 (6/16)

No.	目名	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
				環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来 生物	生態系 被害防止 外来種リスト	
231	カメムシ	ナガカメムシ	スコットヒョウタンナガカメムシ					
232			シロヘリナガカメムシ					
233			ムラサキナガカメムシ					
234			コバネヒョウタンナガカメムシ					
235		ツノカメムシ	セアカツノカメムシ					
236			ヒメハサミツノカメムシ					
237			ハサミツノカメムシ					
238			アオモンツノカメムシ					
239			エサキモンキツノカメムシ					
240			モンキツノカメムシ					
241		ツチカメムシ	ミツボシツチカメムシ					
242			ツチカメムシ					
243		ノコギリカメムシ	ノコギリカメムシ					
244		カメムシ	ウズラカメムシ					
245			ウシカメムシ					
246			シロヘリクチフトカメムシ					
247			ブチヒゲカメムシ					
248			ハナダカカメムシ					
249			キマダラカメムシ					外来種
250			ナガメ					
251			ムラサキシラホシカメムシ					
252			シラホシカメムシ					
253			ツヤアオカメムシ					
254			クサギカメムシ					
255			ミヤマカメムシ					
256			ニセヨツボシカメムシ					
257			ミナミアオカメムシ					
258			イチモンジカメムシ					
259			チャバネアオカメムシ					
260		マルカメムシ	マルカメムシ					
261		キンカメムシ	アカスジキンカメムシ					
262		クヌギカメムシ	ヘラクヌギカメムシ					
263		アメンボ	オオアメンボ		NT			
264			アメンボ					
265	アミメカゲロウ	コナカゲロウ	シロコナカゲロウ					
266		クサカゲロウ	ニッポンクサカゲロウ					
267			スズキクサカゲロウ					
268			イツホシアカマダラクサカゲロウ					
269			カオマダラクサカゲロウ					
270		ヒメカゲロウ	Hemerobius 属					
271			ホソバヒメカゲロウ					
272		ウスバカゲロウ	ウスバカゲロウ					
273	トビケラ	シマトビケラ	ナミコガタシマトビケラ					
274			ウルマーシマトビケラ					
275		クダトビケラ	Tinodes 属					
276		ヒメトビケラ	マツイヒメトビケラ					

昆虫類・クモ類 (7/16)

No.	目名	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
				環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来 生物	生態系 被害防止 外来種リスト	
277	トビケラ	カクツツトビケラ	トウヨウカクツツトビケラ					
278	チョウ	マガリガ	ホソオビヒゲナガ					
279		ミノガ	アキノヒメミノガ					
280			クロツヤミノガ					
281		ヒロスコガ	マダラマルハヒロスコガ					
282		コブカザリバガ	ズグロコブカザリバ					
283		マルハキバガ	ネズミエグリヒラタマルハキバガ					
284		スガ	コナガ					
285		ハマキモドキ	イワテギンボシハマキモドキ					
286		スカシバガ	オオモモトスカシバ		NT			
287			コスカシバ					
288		ハマキガ	シリグロハマキ					
289			ツマジロクロヒメハマキ					
290			ニレコヒメハマキ					
291			ホソバチビヒメハマキ					
292		マダラガ	タケノホソクロバ					外来種
293		セセリチョウ	ダイミョウセセリ					
294			イチモンジセセリ					
295			チャバネセセリ					
296			キマダラセセリ					
297		シジミチョウ	ムラサキツバメ					
298			ムラサキシジミ					
299			ルリシジミ					
300			ウラギンシジミ					
301			ツバメシジミ					
302			ベニシジミ					
303			ヤマトシジミ本土亜種					
304		タテハチョウ	ツマグロヒョウモン					
305			アカボシゴマダラ			特定	国外・総合対策	外来種
306			ゴマダラチョウ本土亜種					
307			ルリタテハ本土亜種					
308			クロコノマチョウ					
309			ヒメジャノメ					
310			サトキマダラヒカゲ					
311			コミスジ本州以南亜種					
312			キタテハ					
313			ヒメアカタテハ					
314		アゲハチョウ	アオスジアゲハ					
315			カラスアゲハ本土亜種					
316			クロアゲハ本土亜種					
317			アゲハ					
318		シロチョウ	モンキチョウ					
319			キタキチョウ					
320			モンシロチョウ					
321		トリバガ	コブドウトリバ					
322			ナカノホソトリバ					

昆虫類・クモ類 (8/16)

No.	目名	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
				環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来 生物	生態系 被害防止 外来種リスト	
323	チョウ	ツトガ	シロモンノメイガ					
324			オオキノメイガ					
325			コブノメイガ					
326			ツゲノメイガ					
327			アヤナミノメイガ					
328			クロヘリキノメイガ					
329			ワタノメイガ					
330			ハイマダラノメイガ					
331			モンキクロノメイガ					
332			マメノメイガ					
333			マエアカスカシノメイガ					
334			シバツトガ					外来種
335			アメリカピンクノメイガ					外来種
336			ベニフキノメイガ					
337			シロオビノメイガ					
338		メイガ	Endotricha 属					
339			アカマダラメイガ					
340		シャクガ	ミジンキヒメシャク					
341			ヒメウスアオシャク					
342			フタナミトビヒメシャク					
343			ナミスジチビヒメシャク					
344		カイコガ	クワコ					
345		ヤママユガ	オオミズアオ本土亜種					
346		スズメガ	クルマスズメ本土亜種					
347			ウンモンズズメ					
348			オオスカシバ					
349			ホシホウジャク					
350			シモフリスズメ					
351			セスジスズメ					
352		シャチホコガ	モンクロシャチホコ					
353		ヒトリガ	モンクロベニコケガ					
354		ヤガ	ミツモンキンウワバ					
355			ヒメシロテンヤガ					
356			サビイロヤガ					
357			ニレキリガ					
358			シマケンモン					
359			キノコヨトウ					
360			ナカグロクチバ					
361			オオタバコガ					外来種
362			アオアツバ					
363			カキバトモエ					
364			オオウンモンクチバ					
365			トビイロトラガ					
366			スジキリヨトウ					
367		コブガ	アカマエアオリンガ					
368	ハエ	オビヒメガガンボ	Dicranota 属					



昆虫類・クモ類 (9/16)

No.	目名	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
				環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来 生物	生態系 被害防止 外来種リスト	
369	ハエ	ヒメガガンボ	Antocha 属					
370			ホソバネヒメガガンボ					
371			Geranomyia 属					
372			ナミガタガガンボ					
373			Styringomyia 属					
374		ガガンボ	エソホソガガンボ					
375			キイロホソガガンボ					
376			ホリカワクシヒゲガガンボ					
377			Tipula 属					
378		ユスリカ	Chironomus 属					
379		カ	Aedes 属					
380		クバエ	Bibio 属					
381		キノコバエ	シワバネキノコバエ					
382		ミズアブ	アメリカミズアブ					外来種
383			ハラキンミズアブ					
384		ムシヒキアブ	アオメアブ					
385			ナミマガリケムシヒキ					
386			ナガトミヒメムシヒキ					
387			シオヤアブ					
388			ヒサマツムシヒキ					
389		ツリアブ	クロバネツリアブ					
390		オドリバエ	Hybos 属					
391			Syneches 属					
392		ハナアブ	ツマグロコシボソハナアブ					
393			ホソヒラタアブ					
394			キゴシハナアブ					
395			マドヒラタアブ					
396			ヒライハイジマハナアブ					
397			ナミホシヒラタアブ					
398			アシプトハナアブ					
399			タカサゴハラフトハナアブ					
400			Melanostoma 属					
401			ムチンシママメヒラタアブ					
402			シママメヒラタアブ					
403			キアシママメヒラタアブ					
404			ミナミヒメヒラタアブ					
405			ホソヒメヒラタアブ					
406			ベッコウハナアブ					
407			ナミルリイロハラナガハナアブ					
408		ヒラタアシバエ	Lindheromyia 属					
409		キモグリバエ	Rhodesiella 属					
410			オウトウショウショウバエ					
411			Leucophenga 属					
412			Sciapus 属					
413		ミギワバエ	トキワクロツヤミギワバエ					
414		シマバエ	Homoneura 属					

昆虫類・クモ類 (10/16)

No.	目名	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
				環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来 生物	生態系 被害防止 外来種リスト	
415	ハエ	シマバエ	ヨロイシマバエ					
416			<i>Steganopsis vittipleura</i>					
417		ナガズヤセバエ	モンキアシナガヤセバエ					
418		ヒメコバエ	ツマグロヒメコバエ					
419		ヒロクチバエ	キマダラヒロクチバエ					
420			ダイズコンリュウバエ					
421		ツヤホソバエ	ナミヒトテンツヤホソバエ					
422		ミバエ	ミスジミバエ					
423			オウトウハマダラミバエ					
424		ハナバエ	<i>Delia</i> 属					
425		クロバエ	ミドリキンバエ					
426			ミヤマキンバエ					
427			ツマグロキンバエ					
428		イエバエ	ギョウギシバクキエバエ					
429			<i>Coenosia</i> 属					
430			シナホソカトリバエ					
431			ヘリグロハナレメイバエ					
432			<i>Phaonia</i> 属					
433			シリモチハナレメイバエ					
434		ニクバエ	ゲンロクニクバエ					
435		フンバエ	ヒメフンバエ					
436		ヤドリバエ	<i>Euthera tuckeri</i>					
437	コウチュウ	オサムシ	ニセマルガタゴミムシ					
438			メダカチビカワゴミムシ					
439			アオオサムシ					
440			セアカヒラタゴミムシ					
441			ケウスゴモクムシ					
442			ヒメケゴモクムシ					
443			ウスアカクロゴモクムシ					
444			ジュウジアトキリゴミムシ					
445			コルリアトキリゴミムシ					外来種
446		ハンミョウ	トウキョウヒメハンミョウ					外来種
447		エンマムシ	コエンマムシ					
448		ハネカクシ	アオバアリガタハネカクシ					
449		マルハナノミ	コキムネマルハナノミ					
450		クワガタムシ	コクワガタ					
451		コガネムシ	コイチャコガネ					
452			ヒゲブトハナムグリ					
453			アオドウガネ					
454			セマダラコガネ					
455			コアオハナムグリ					
456			アシナガコガネ					
457			ヒメトラハナムグリ本土亜種					
458			ビロウドコガネ					
459			ヒメビロウドコガネ					
460			マルガタビロウドコガネ					

昆虫類・クモ類 (11/16)

No.	目名	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
				環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来 生物	生態系 被害防止 外来種リスト	
461	コウチュウ	コガネムシ	コフキコガネ					
462			マメコガネ					
463			シラホシハナムグリ <sup>注4)</sup>					外来種
464			シロテンハナムグリ					
465			カナブン					
466			クロカナブン					
467			カブトムシ					
468		タマムシ	クロナガタマムシ					
469			ヒシモンナガタマムシ					
470			ウバタマムシ		NT			
471			タマムシ		NT			
472			ウメチビタマムシ					
473			サシゲチビタマムシ					
474			ヤノナミガタチビタマムシ					
475		コメツキムシ	サビキコリ					
476			ホソサビキコリ					
477			アカアシハナコメツキ					
478			オオハナコメツキ					
479			キバネクチボソコメツキ					
480			マルクビクシコメツキ					
481			クロクシコメツキ					
482			アカヒゲヒラタコメツキ					
483			Paracardiophorus 属					
484			マダラチビコメツキ					
485			アカアシオオクシコメツキ					
486			オオクロクシコメツキ					
487		コメツキダマシ	コメツキダマシ科					
488		ジョウカイボン	オカベセボシジョウカイ					
489		ベニボタル	クロハナボタル					
490		カツオブシムシ	ヒメマルカツオブシムシ					外来種
491			カマキリタマゴカツオブシムシ					
492		ヒメトゲムシ	タイワンヒメトゲムシ					
493		シバンムシ	シバンムシ科					
494		ヒョウホンムシ	ケジロヒョウホンムシ					
495		ジョウカイモドキ	ヒロオビジョウカイモドキ					
496		ツツキノコムシ	ツツキノコムシ科					
497		テントウムシ	ハラグロオオテントウ					
498			ムーアシロホシテントウ					
499			シロジュウシホシテントウ					
500			ナナホシテントウ					
501			フタモンクロテントウ					
502			トホシテントウ					
503			ナミテントウ					
504			ニジュウヤホシテントウ					
505			キイロテントウ					
506			ダンダラテントウ					

昆虫類・クモ類 (12/16)

No.	目名	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
				環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来 生物	生態系 被害防止 外来種リスト	
507	コウチュウ	テントウムシ	ウスキホシテントウ					
508			ヨツボシテントウ					
509			モンクチビルテントウ					外来種
510			ヒメカメノコテントウ					
511			クモガタテントウ					外来種
512			ムネハラアカクロテントウ					外来種
513			クロヘリヒメテントウ					
514			クロツヤテントウ					
515			ムツボシテントウ					
516			シロホシテントウ					
517		キスイムシ	Cryptophagus 属					
518		オオキノコムシ	ルリオオキノコムシ					
519			セモンホソオオキノコムシ					
520			ズグロホソオオキノコムシ					
521			ホソチビオオキノコムシ					
522		ヒメマキムシ	ヒメマキムシ科					
523		ケシキスイ	クロモンクゲケシキスイ					
524			ナガコゲチャケシキスイ					
525			クリイロデオキシイ					外来種
526			ナミモンコケシキスイ					
527			Epuraea 属					
528			ヨツボシケシキスイ					
529			アカマダラケシキスイ					
530			カタベニデオキシイ					
531		ヒメハナムシ	ヒメハナムシ科					
532		ホソヒラタムシ	マルムネホソヒラタムシ					
533		ホソカタムシ	ツヤナガヒラタホソカタムシ					
534		ハナノミ	ウスキボシハナノミ					
535		カミキリモドキ	アオグロカミキリモドキ					
536		ハナノミダマシ	クロフナガタハナノミ					
537		ゴミムシダマシ	ホンドトビイロクチキムシ					
538			ルリゴミムシダマシ					
539			モンキゴミムシダマシ					
540			アカツヤバネクチキムシ					
541			クロツヤバネクチキムシ					
542			オオメキバネハムシダマシ					
543			ヒゲブトゴミムシダマシ					
544			ベニモンキノコゴミムシダマシ					
545			サトユミアシゴミムシダマシ					
546			ホンドクロオオクチキムシ					
547		カミキリムシ	キマダラミヤマカミキリ					
548			フタオビミドリトラカミキリ					
549			ニイジマチビカミキリ					
550			カタシロゴマフカミキリ					
551			ヒシカミキリ					
552			ラミーカミキリ					外来種

昆虫類・クモ類 (13/16)

No.	目名	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
				環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来 生物	生態系 被害防止 外来種リスト	
553	コウチュウ	カミキリムシ	ヒメクロトラカミキリ					
554		ハムシ	アカバナカミナリハムシ					
555			ヘリグロテントウノミハムシ					
556			ヒメテントウノミハムシ					
557			ウリハムシ					
558			クロウリハムシ					
559			アオバネサルハムシ					
560			アズキマメゾウムシ					外来種
561			ヒメドウガネトビハムシ					
562			ツツジムシクソハムシ					
563			ヒトミヒメサルハムシ					
564			クロアシヒメツツハムシ					
565			イモサルハムシ					
566			Cryptocephalus 属					
567			カサハラハムシ					
568			クワハムシ					
569			ヤツボシハムシ					
570			ヨツモンカメノコハムシ					外来種
571			キベリクビボソハムシ					
572			キバラルリクビボソハムシ					
573			アカクビボソハムシ					
574			クズクビボソハムシ					外来種
575			ヤマイモハムシ					
576			クロボシトビハムシ					
577			オオアシナガトビハムシ					
578			クロウスバハムシ					
579			ニホンケブカサルハムシ					
580			エンジュマメゾウムシ					
581			ルリマルノミハムシ					
582			ブタクサハムシ					外来種
583			セスジクビボソハムシ					
584			アトボシハムシ					
585			ルリナガスネトビハムシ					
586			ナトビハムシ					
587			ダイコンナガスネトビハムシ					
588			サンゴジュハムシ					
589			ニレハムシ					
590			ドウガネサルハムシ					
591			イチモンジカメノコハムシ					
592			ヒゲナガアラハダトビハムシ					
593		ヒゲナガゾウムシ	エゴヒゲナガゾウムシ					
594			カオジロヒゲナガゾウムシ					
595		ホソクチゾウムシ	コゲチャホソクチゾウムシ					
596		オトシブミ	クロケシツブチョッキリ					
597			カシルリオトシブミ					
598		ゾウムシ	メナガクチフトゾウムシ					



昆虫類・クモ類 (14/16)

No.	目名	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
				環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来 生物	生態系 被害防止 外来種リスト	
599	コウチュウ	ゾウムシ	ミドリサルゾウムシ					
600			アオバネサルゾウムシ					
601			チャイロアカサルゾウムシ					
602			コフキゾウムシ					
603			タデトゲサルゾウムシ					
604			アルファルファタコゾウムシ					外来種
605			ケブカクチフトゾウムシ					
606			ツツジトゲムネサルゾウムシ					
607			チビヒョウタンゾウムシ					
608			カシワクチフトゾウムシ					
609			ツノヒゲボソゾウムシ					
610			スグリゾウムシ					
611			ヒレルクチフトゾウムシ					
612			Rhinoncus 属					
613			サビヒョウタンゾウムシ					
614			ヒサゴクチカクシゾウムシ					
615			ケチビコフキゾウムシ					外来種
616			ツメクサタネコバンゾウムシ					外来種
617		オサゾウムシ	コクゾウムシ					
618		チビゾウムシ	Nanophyes 属					
619		ナガキクイムシ	カシノナガキクイムシ					
620	ハチ	ミフシハバチ	シリグロチュウレンジ					
621			アカスジチュウレンジ					
622			ルリチュウレンジ					
623		ハバチ	ハグロハバチ					
624			セグロカブラハバチ					
625			ニホンカブラハバチ					
626			イハバチ					
627			サクラヒメハバチ					
628		コマユバチ	ムネアカトゲコマユバチ					
629			Ascogaster 属					
630			クロヒゲアカコマユバチ					
631		ヒメバチ	Enicospilus 属					
632			キオビコシフトヒメバチ					
633			アカハラヒラタアブヤドリヒメバチ					
634			マダラヒメバチ					
635		ツノヤセバチ	ニッポンツノヤセバチ					
636		アシフトコバチ	アジアカツヤアシフトコバチ					
637			チビツヤアシフトコバチ					
638			キアシフトコバチ					
639		アリガタバチ	ムカシアリガタバチ					
640		アリ	オオハリアリ					
641			クロオオアリ					
642			ヨツボシオオアリ					
643			ウメマツオオアリ					
644			ヤマヨツボシオオアリ					

昆虫類・クモ類 (15/16)

No.	目名	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
				環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来 生物	生態系 被害防止 外来種リスト	
645	ハチ	アリ	ハリフトシリアゲアリ					
646			キイロシリアゲアリ					
647			テラニシシリアゲアリ					
648			クロヤマアリ					
649			ハヤシケアリ					
650			トビイロケアリ					
651			ヒラアシクサアリ					
652			クロナガアリ					
653			アメイロアリ					
654			アミメアリ					
655			ムネボソアリ					
656			トビイロシワアリ					
657		スズメバチ	ミカドトックリバチ					
658			スズバチ					
659			ムモンホソアシナガバチ					
660			コアシナガバチ					
661			カタグロチビドロバチ					
662			フトカギチビドロバチ					
663			キオビチビドロバチ					
664			コガタスズメバチ					
665			モンズズメバチ	DD				
666			チャイロスズメバチ					
667			オオスズメバチ					
668			キイロスズメバチ					
669			クロスズメバチ					
670		アリバチ	ホソアリバチ					
671			ルイスヒトホシアリバチ					
672			ヤマトアリバチモドキ					
673		コツチバチ	アカハコツチバチ本土沖縄亜種					
674		ツチバチ	ヒメハラナガツチバチ本土亜種					
675			キンケハラナガツチバチ					
676			コモンツチバチ					
677		セナガアナバチ	サトセナガアナバチ					外来種
678		ギングチバチ	ガガンボギングチ					
679			ヒメコオロギバチ本土亜種					
680			ヤマトトゲアナバチ					
681			クロホソギングチ					
682		ドロバチモドキ	ニッポンツヤアナバチ					
683			オオトゲアワフキバチ					
684		アリマキバチ	アバタアリマキバチ					
685		フシダカバチ	ヒメツチスガリ					
686			ナミツチスガリ					
687		アナバチ	コクロアナバチ					
688			アメリカジガバチ					外来種
689		ヒメハナバチ	キバナヒメハナバチ					
690			コガタウツギヒメハナバチ					

昆虫類・クモ類 (16/16)

No.	目名	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
				環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来 生物	生態系 被害防止 外来種リスト	
691	ハチ	ミツバチ	ニホンミツバチ					
692			セイヨウミツバチ					外来種
693			コマルハナバチ本土亜種					
694			ヤマトツヤハナバチ					
695			シロスジヒゲナガハナバチ					
696			ギンランキマダラハナバチ					
697			コキマダラハナバチ					
698			ミツクリヒゲナガハナバチ					
699			キムネクマバチ					
700		ムカシハナバチ	スミスメンハナバチ					
701		コハナバチ	アカガネコハナバチ					
702			ズマルコハナバチ					
703			エブメルツヤコハナバチ					
704			ニッポンチビコハナバチ					
705			サビイロカタコハナバチ					
706			シロスジカタコハナバチ					
707			オオエチビコハナバチ					
708			ツヤハラアカチビコハナバチ					
709			ハラアカチビコハナバチ					
710			ヒラタチビコハナバチ					
711			ズナガチビハナバチ					
712			Sphecodes 属					
713		ハキリバチ	ヒロバトガリハナバチ					
714			バラハキリバチ本土亜種					
715			スタキヌゲハキリバチ					
716			ツルガハキリバチ					
717			ムナカタハキリバチ本土亜種					
合計 17 目 196 科 717 種				2 種	6 種	2 種	2 種	—

注 1) 種名および分類は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 6 年度リスト」(令和 6 年、国土交通省)に準拠した。

注 2) 希少種の選定基準は、以下のとおりである。

環境省 RL: 環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について: (環境省、令和 2 年 3 月公表)

EX: 絶滅 CR: 絶滅危惧 IA 類 EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足  
LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

東京都 RDB (北多摩): 東京都レッドデータブック (本土部) 2023 - 東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部) 解説版  
- 北多摩: (東京都、令和 5 年 3 月公表)

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧 IA 類 EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧  
DD: 情報不足 \*: 留意種

注 3) 特に注意が必要な外来種の選定基準は、以下のとおりである。

特定外来生物: 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律: (環境省、平成 30 年 4 月公表)

特定: 特定外来生物 未判定: 未判定外来生物

生態系被害防止外来種リスト: 「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト (生態系被害防止外来種リスト)」  
の公表について (お知らせ): (環境省、平成 28 年 3 月公表)

国外: 国外由来の外来種 国内: 国内由来の外来種 定着予防: 定着を予防する外来種

総合対策: 総合的に対策が必要な外来種 産業管理: 適切な管理が必要な産業上重要な外来種

注 4) シラホシハナムグリについて、近年都内で見られるようになった個体は移入起源であると考えられているため、外来種として扱うこととした。

水生動物 (1/2)

No.	目名	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
				環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止外来種リスト	
1	コイ	コイ	コイ (型不明) 注4)					国外外来
2			キンギョ					飼育品種
3			カワムツ					国内外来
4			モツゴ					
5			ニゴイ		NT			
6		ドジョウ	ドジョウ類					
7	カダヤシ	カダヤシ	グッピー				国外・総合対策	国外外来
8	ダツ	メダカ	ミナメダカ	VU	CR			
—			メダカ (飼育品種)					飼育品種
9	スズキ	ドンコ	ドンコ					国内外来
10		ハゼ	トウヨシノボリ類		EN			
11	三岐腸	—	三岐腸目					
12	新生腹足	タニシ	ヒメタニシ					
13	汎有肺	モノアラガイ	モノアラガイ科					
14		サカマキガイ	サカマキガイ					国外外来
15	マルスダレガイ	シジミ	Corbicula 属					
16		ドブシジミ	ドブシジミ科					
17	イトミミズ	ミズミミズ	エラミミズ					
18			Limnodrilus 属					
19	厚環帯	ツリミミズ	ツリミミズ科					
20	吻無蛭	ナガレビル	ヌマイシビル					
21	ヨコエビ	マミズヨコエビ	フロリダマミズヨコエビ				国外・総合対策	国外外来
22	ワラジムシ	ミズムシ (甲殻類)	ミズムシ (甲殻類)					
23	エビ	ヌマエビ	Neocaridina 属					国外外来
24		テナガエビ	チュウゴクスジエビ					国外外来
25		アメリカザリガニ	アメリカザリガニ			特定	国外・総合対策	国外外来
26	カゲロウ	コカゲロウ	シロハラコカゲロウ					
27			フタバカゲロウ					
28	トンボ	アオイトトンボ	オオアオイトトンボ		CR			
29		カワトンボ	ハグロトンボ					
30		サナエトンボ	ダビドサナエ					
31			コオニヤンマ					
32		トンボ	シオカラトンボ					
33			コシアキトンボ					
34	カメムシ	アメンボ	オオアメンボ		NT			
35			アメンボ					
36			ヒメアメンボ					
37			シマアメンボ					
38			トガリアメンボ					国外外来
39		カタビロアメンボ	ケシカタビロアメンボ					
40		マツモムシ	コマツモムシ					
41	トビケラ	シマトビケラ	コガタシマトビケラ					
42		ニンギョウトビケラ	ニンギョウトビケラ					
43	ハエ	ガガンボ	Tipula 属					

## 水生動物 (2/2)

No.	目名	科名	種名	希少種区分		特に注意が必要な外来種区分		備考
				環境省 RL	東京都 RDB (北多摩)	特定外来生物	生態系被害防止 外来種リスト	
44	ハエ	ユスリカ	ユスリカ科					
45		ホソカ	Dixa 属					
合計 19 目 33 科 45 種				1 種	5 種	1 種	3 種	—

注 1) 種名および分類は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 6 年度リスト」(令和 6 年、国土交通省)に準拠した。

注 2) 希少種の選定基準は、以下のとおりである。

環境省 RL: 環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について: (環境省、令和 2 年 3 月公表)

EX: 絶滅 CR: 絶滅危惧 IA 類 EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足

LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

東京都 RDB (北多摩): 東京都レッドデータブック (本土部) 2023 - 東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部) 解説版  
- 北多摩: (東京都、令和 5 年 3 月公表)

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧 IA 類 EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧

DD: 情報不足 \* : 留意種

注 3) 特に注意が必要な外来種の選定基準は、以下のとおりである。

特定外来生物: 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律: (環境省、平成 30 年 4 月公表)

特定: 特定外来生物 未判定: 未判定外来生物

生態系被害防止外来種リスト: 「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト (生態系被害防止外来種リスト)」  
の公表について (お知らせ): (環境省、平成 28 年 3 月公表)

国外: 国外由来の外来種 国内: 国内由来の外来種 定着予防: 定着を予防する外来種

総合対策: 総合的に対策が必要な外来種 産業管理: 適切な管理が必要な産業上重要な外来種

注 4) コイは在来種の野生型と国外外来種の飼育型の存在が知られている。2024 年度に確認された個体は型不明としたが、現在野生型が分布することが明らかとなっている水域は琵琶湖のみであることから、型不明のまま外来種として扱うこととした。



# 武蔵野市生きものの調査報告書

令和 7 年 3 月

武蔵野市環境部環境政策課

TEL 0422-60-1841

FAX 0422-51-9197

メール [sec-kankyou@city.musashino.lg.jp](mailto:sec-kankyou@city.musashino.lg.jp)

※本報告書に掲載されている写真の無断転載はご遠慮ください。

